

権左(ポモルツェフ)、ア・ボグダーノフ共著、簡略 文法について

村山, 七郎

<https://doi.org/10.15017/2332783>

出版情報 : 文學研究. 66, pp.1-93, 1969-09-20. 九州大学文学部
バージョン :
権利関係 :

権左(ポモルツェフ)共著
ア・ボグダーノフ

簡略文法について

村山七郎

内外の学界を通じてここにはじめて発表される「簡略文法」は *Краткая Грамматичка* と言い、ソ連科学アカデミーのアジア諸民族研究所（旧東洋学研究所）レニングラード支部の古文書部（アルヒーフ）に保管されている（Архив востоковедов, разряд 1, опись 4）。

筆者はソ連科学アカデミーの好意によつて1965年6—7月学術調査のため訪ソしたさいレニングラードにおいて3週間をすむすあいだ、これを手でうつした。日本から漂流したゴンザと科学アカデミー司書補アンドレイ・ボグダーノフの共著になる露日語彙集（1736年）、日本語会話入門（これはチェコの教育学者コメニウスの著わしたラテン語入門のロシア語訳、日本語訳であることが筆者によつて明らかにされた）（1736年）、新スラヴ・日本語辞典（1738年）、友好会話手本集（1739年）のマイクロフィルムはソ連科学アカデミーの好意で入手したが、「簡略文法」とコメニウス原著 *Orbis pictus* のロシア語・日本語訳（1739年、コメニウスの著作がロシア語からの重訳であるとはいえ、1738年に薩摩青年の手でサンクト・ペテルブルグ—今のレニングラード—で日本語に訳されたことは、日本の教育学界においてはほとんど知られていないようである）とはマイクロフィルムを入手できなかつた。レニングラード在住の、ソ連の最もすぐれた日本語学者のひとり、オ・ペトロワ女史は筆者のために科学アカデミーに依頼してオルビス・ピクトゥスのマイクロフィルムを作製されようとしたが成功しなかつた。ペトロワ女史はこの文献の、筆者との共同研究をつよく希望しておられる。さて、「簡略文法」について言えば、上記のように筆者は

手で写した*。 21丁より成る。第1丁表にはアンドレイ・ボグダーノフの自筆で次のように書かれている。

Писана яцонцом под надзирением и учением русскаго языка через Андрея Богданова. 1738, 「アンドレイ・ボグダーノフによつて監督されロシア語を教えられながら日本人が書いた。1738, 」

これによつて、「簡略文法」の成立は明らかとなる。ここにいう日本人とは1728年薩摩を出帆して大阪に向つたワカシワ丸で翌1729年初夏カムチャツカ東岸南部（ロパトカ岬とアワチャ湾との間の地点）に漂着した一人である。そのときロシア人に助けられた少年ゴンザと年長のソーザとは後にペテルブルグに送られ、科学アカデミー司書補ボグダーノフの許にあずけられ、アカデミー内でロシア人子弟に日本語を教えた。ゴンザはデミアン・ポモルツェフというロシア名を与えられた。ソーザは1736年9月18日に43歳で没しているから、「簡略文法」（1738年）第1丁に出ている日本人はゴンザであるに相違ない。ゴンザについては拙著「漂流民の言語」、吉川弘文館、1965年、22ページ以下を参照されたい。

ゴンザは1739年21歳でペテルブルグで没した（実際はこれより年上であつたと想像される）。

ゴンザにロシア語を教えたのは上記のア・ボグダーノフである。この人物についてはイ・エヌ・コブレツの「アンドレイ・ボグダーノフ（1692～1766年）」（モスクワ、1958年）⁽¹⁾にくわしいが、ロシアの文献学上きわめて重要なこの人物が何処で、何年に生れたかは謎であるとされている。（コブレツは1692～1766となすが私は1696～1766と推定する）。この問題においてロシア、ソ連の学者は重要な事実を見おとしていたのであつた。それは、ボグダーノフ・ゴンザの共著になる「新スラヴ・日本語辞典」（稿本、1738年）の最初のページにおいて、ロシア語 охápка（ひとかか

*写したノートの最後に「1965年6月26日 P. M. 1時17分写了。Berthels 氏〔古文書部長〕が近くでタイプをうっている。ネフ川の向うに、要塞の塔の黄金のかざりが輝いている。ゴンザを想う、秀世を想う」と書いてある。

え), *очаг* (焔) を *ахапка, ачаг* と誤記していることである。正書法からのこのズレは、このロシア語を書いたロシア人（つまり、ボグダーノフ）が、アクセントをになう音節に先行する音節の *о* を *а* と発音していたこと、つまり彼の方言が「アーカニエ」の方言であつたことを明示するものである。ソ連では、ボグダーノフをノヴゴロド生れと見なす学説が有力のようであるが、同地はアーカニエ方言の行われる地域ではないので、この説は否定されねばならない。ボグダーノフがアーカニエ方言を話していたことは「簡略文法」のロシア語でも、*достбит* (…するのがふさわしい) を *дастоит* と書いている点、また *простойнѣ* (より簡単な) を *прас-тойнѣ* と書いている点にもあらわれている。科学アカデミーの記録に出てくるモスクワ生れの、ペテルブルグの科学アカデミー・ギムナジウの生徒ア・ボグダーノフ⁽²⁾こそ、ここに問題とするアンドレイ・ボグダーノフであると見て誤りあるまい。この生徒はラテン語を学んでいたが、われわれのボグダーノフも、従来の研究者の意見とは反対に、ラテン語を知っていたのである⁽³⁾。

筆者はボグダーノフの伝記の著者コブレンツがここに指摘した事実に目を向けて、自説を改める日の到来することを確信している。

ボグダーノフはコメニウスの著作を、筆者の知るかぎり、少なくとも2つロシア語にうつしている。ひとつは *Orbis pictus* であり、これはソ連の日本学者オ・ペトロワによつて指摘された⁽⁴⁾。もうひとつはボグダーノフ・ゴンザの共著「日本語会話入門」⁽⁵⁾ であり、これがコメニウスのラテン入門であることは筆者が1966年、西ドイツのボーフム市のルール大学において発見したところである⁽⁶⁾。

そこで、この「簡略文法」のロシア語の部分は同じくコメニウスの著作を土台とするのではなからうか、という疑問が生ずるのである。

ところで、ロシア語の文法の歴史について、ヴェ・ヴェ・シチュウリンとヴェ・イ・メドヴェディエワの共書「ロシアにおける文法学説の歴史の選文読本」(モスクワ, 1965年)⁽⁷⁾には最初につきのように書かれている。

「ロシア語の文法構造の諸問題を真に科学的にとりあつた発端は公平にみて、ミハイル・ワシリエウイチ・ロモノーソフ（1711—1765）の名と結びついている。

ふつう、最初のロシア語文法はルードルフの「ロシア語文法」（1696年）と見られている。しかしルードルフの著作はロシア語研究史にとつて価値があるだけである。ルードルフはまったく実用的な目的を追求したのである。つまり、その著述を外人用の手引書にしようとしたのだ。エス・ペ・オブノルスキーの書いたところによると、『ルードルフの著述の実用的な性格はもちろん文法の内容自体にも反映せざるをえなかつた。このようなものだつたので、この文法はその構成において独創的ではなかつた。それは、先行の「スラヴ」諸文法、とくにスモトリツキーの文法を土台とするものであつた。』（エス・オブノルスキー、ルードルフの1696年のロシア語文法。論文集「ソヴィエト言語学」第3巻、レニングラード、1937年、43ページ）。

1731年に（ワイスマンのドイツ・ラテン・ロシア語辞典の付録として）出版されたアダドゥロフの文法要綱も問題提起が広いとか、問題解決が深いとかいうものでない。その缺陷と不完全さはすでにロモノーソフが指摘した。

18世紀の半ばころ教育啓蒙の必要をみたしうる文法関係著述が無いことが痛感されはじめた。古代スラヴ語〔教会スラヴ語…引用者〕の諸入門書はそのころ、あまりにも局限された意義を持つていた。そこでその方向、課題、目的がこれと異つた著作が必要であつた。1757年1月に出版されたロモノーソフの『ロシア語文法』はまさにそのような著作であつた」（5—6ページ）。ロモノーソフの「ロシア語文法」（1757年1月）⁽⁸⁾以前のロシア語文法としては、ここには、ルードルフの「ロシア語文法」（Лудолф. Русская Грамматика, 1696）とアダドゥロフ（Ададуrow）の文法要綱（1731年）が挙げられているだけである。

筆者はルードルフとアダドゥロフのロシア語文法を見ていないが、ボグダーノフの手になる「簡略文法」（1738年）のロシア語文法はそれらより優れていることが想像される。ロモノーソフの「ロシア語文法」より前にボグダーノフの手によつて文法が書かれたことを、ソ連のロシア語学者はほとんど知らない。なぜなら、「簡略文法」はアジア諸民族研究所のアルヒーフにおいて保管され、これまで公表されなかつたからである。

筆者自身は現在、これを一方ではルードルフとアダドゥロフの文法書と、他方ではロモノーソフの文法書と比較してボグダーノフ文法の特徴を明らかにする意図をもたないが、これはひとつの重要な仕事であるとおもう。

ロモノーソフの文法より約20年以前にロシア語文法が書かれ、しかも日本語との対比の形をとつているのは興味がある。しかもこの日本語は1728年ころの薩摩の方言であるから、いつそう興味がある。

次に「簡略文法」の構成についてのべておく。

各ページが2段から成り、左半に薩摩方言形が、右半にロシア語形が示される。

最初に名詞の変化が取りあげられる。日本語名詞の単数形、複数形がロシア語の格（主格、生格、与格、対格、造格、話し格）によつて変化させられる。第1変化と第2変化に分けられる。

代名詞においては人称、疑問、指示、所有代名詞の変化が示される。

動詞では、先ず日本語（薩摩方言）動詞終止形の語末音をアルファベット式に排列して分類が行なわれる。次いで能動形の直接法（各人称の現在、過去、未来）、命令法（現在、未来）、仮定法（各人称、現在、過去、未来）、不定法、形動詞（現在、過去、未来）、被働形動詞（と言つても、ロシア語動詞幹に再帰代名詞の省略形 *ся* の接尾した形で、対応の日本語自体には被働の意味はない）直接法（各人称の現在、過去、未来）、命令法、仮定法（各人称の現在、過去、未来）、不定法、形動詞、人称動詞（例は存在動詞）の直接法、命令法、仮定法、不定法、形動詞、非人称動詞の能動形の直接法、仮定法、不定法が取扱われ、最後に28に分類された副詞

が示され、それで「簡略文法」は終っている。

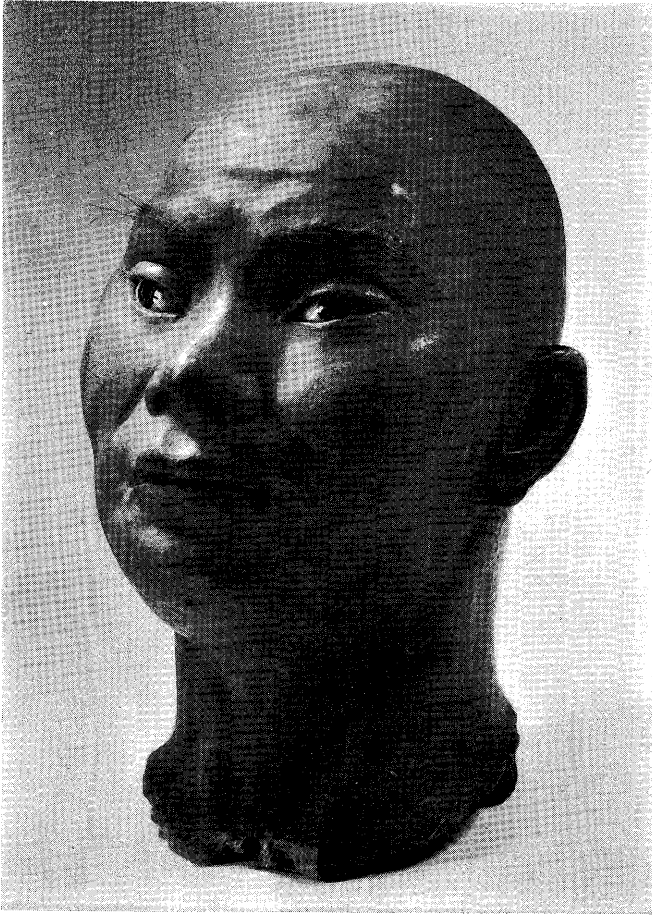
本書の中のロシア語は非常に古風であり、現代ロシア語の規範的知識をもつてすれば誤りと見られるところが少なくない。しかし、古いテキストを研究するさいに最も警戒さるべきことは、現代語の規範から出発して、テキスト自体を改めてしまうことである。筆者は出来るかぎり原テキストを忠実に再現しようとしてつとめた。教会スラヴ語系の単語、語形、また方言的な語形も少なくない。本原稿が書かれたころはペートル大帝の文字改革がすでに行われた後であるが、一挙にそれが徹底しなかつたことが本書からわかる。本書は18世紀前半のロシア語の研究資料としても大きな価値をもつと思われる。

原文はボグダーノフの指導なしにはとうてい成立しなかつたであろう。それにしても薩摩の一青年が230年前にこれほど立派な著作をものにし得たことに驚嘆せざるをえない。

本書の日本語の部分は専ら権左（ポモルツェフ）の手に成り、18世紀前半の薩摩方言を活写しており、九州方言の研究に情熱をいただいております。福田良輔教授の退官を記念した「文学研究」に「簡略文法」の全文を世界ではじめて発表する機会を与えられたのは筆者の大きな喜びである。

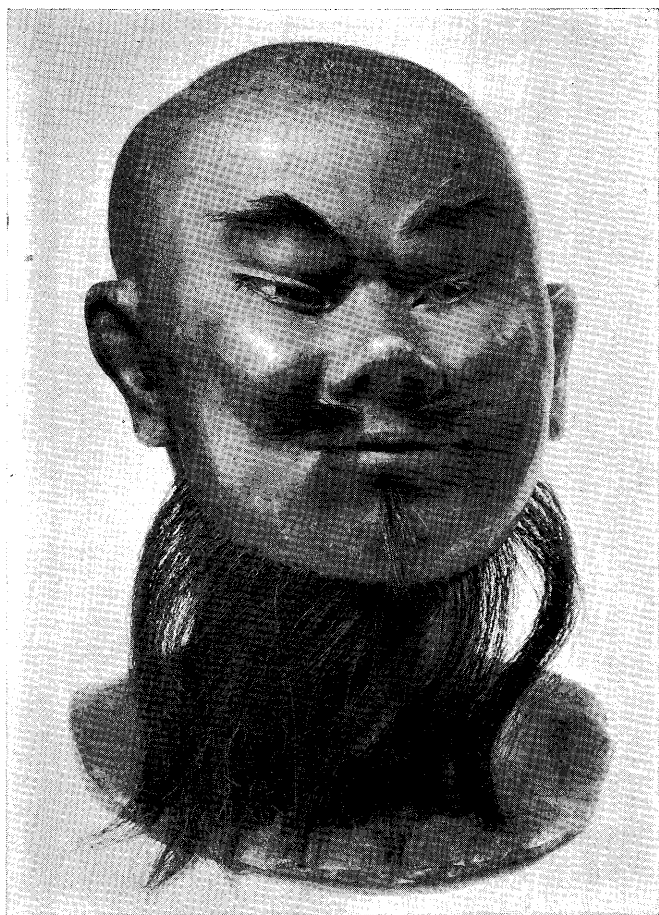
註

- (1) И. Н. Кобленц. Андрей Иванович Богданов 1692~1766. Москва, 1958.
- (2) Op. cit., p. 39, p. 43.
- (3) Op. cit., p. 100 には、ボグダーノフは外国語（複数）ができなかつたとある。実際にはラテン語、日本語ができた。おそらくドイツ語も出来たであろう。
- (4) О. П. Петрова. Японский язык в России в первой половине XVIII века. Народы Азии и Африки. 1965, No. 1.
- (5) 村山七郎, 漂流民の言語, 81—128ページ。
- (6) 村山七郎, 日露接触初期の文献学的研究の序説 (下). 共産圏問題, 第12巻第6号 (1968年6月)。
- (7) . В. В. Щедулин, В. И. Медведева. Хрестоматия по истории грамматических учений в России. Москва, 1965.
- (8) М. В. Ломоносов. Российская грамматика. Полн. соч., Т. 7. М. -Л. 1952.



権左の蠟製の像

1965年6月26日筆者がレニングレードのクストカーメラで発見したもの。
(亀井高孝, 村山七郎「日本漂流民とクストカーメラ」, 日本歴史210号参照)



ソ ー ザ の 蠟 製 の 像
(レニングラード, クンストカーメラ)

凡 例

1. 以下のページの左方に原文をかかげる。
2. 右方にはキリル字 (ロシア字) で書いた日本語 (薩摩方言) を仮名で近似的に示し、その右にロシア語の日本語訳を示した。
3. 不明瞭な書き方のところは (?) を入れた。
4. めけていると思われる部分は [] で示した。
5. 理解のため必要と思われた書き入れも [] の中に示した。明らかに誤りとと思われるものは sic! (ママ) と書いておいた。
6. ローマ字転写は行なわなかった。
7. 仮名書きで不十分と思われるところは、キリル字で書いた形を参照すればよい。
8. 日本語を表わすために用いられているロシア字は次のようにローマ字 (及び音声記号) につづされる。

ロシア字	ローマ字
а	a
б	b
в	w
г	g
д	d
е	子音の後では e, その他は je
ж	ʒ
з	z
и	i
й	i (半母音的イ)
і	i
к	k
л	l
м	m
н	n
о	o
п	p
р	r
с	s
т	t
у	u

ф	f
х	x
ω	ω(0)
ц	c (ツァの子音)
ч	č
ш	ʃ
ъ (硬音符)	この文字の前の子音が口蓋化していないことを示す.
ы	i
ь (軟音符)	子音の口蓋化を示す.
ѣ	ě
ю	ju
я	ja
я (<u>ю</u>)	jo

簡略文法目次

(村山作製. 番号は便宜上村山の付したのもの)

- | | | |
|-----------------|----------------|------|
| 1.0 名詞 | 2.11 ワガモン | 自分の |
| 1.1 第1変化 | 2.12 ドイ | いずれ |
| 1.1.1 アに終る | 2.13 ダガト | 誰の |
| 1.1.2 アヤに終る | 2.14 アノフトント | 彼の |
| 1.1.3 エに終る | 2.15 ドノト… | いずれの |
| 1.1.4 イェヤに終る | 3.0 動詞 | |
| 1.1.5 オに終る | 3.1 日本語動詞の語尾 | |
| 1.1.6 オヤに終る | 3.1.1 アウ | |
| 1.1.7 ウヤに終る | 3.1.2 アグ | |
| 1.1.8 エに終る | 3.1.3 アク | |
| 1.1.9 i に終る | 3.1.4 アム | |
| 1.1.10 ウに終る | 3.1.5 アル | |
| 1.1.11 ュに終る | 3.1.6 アス | |
| 1.2 第2変化 | 3.1.7 アツ | |
| 1.2.1 アに終る | 3.1.8 ヲユ | |
| 1.2.2 イに終る | 3.1.9 イェグ (ヨグ) | |
| 1.2.3 オイに終る | 3.1.10 イェク | |
| 1.2.4 ウイに終る | 3.1.11 イェン | |
| 1.2.5 非口蓋化子音に終る | 3.1.12 イェル | |
| 1.2.6 口蓋化子音に終る | 3.1.13 イク | |
| 1.2.7 ヤに終る | 3.1.14 イル | |
| 2.0 代名詞 | 3.1.15 ク | |
| 2.1 [オイ 私] | 3.1.16 オブ | |
| 2.2 コナタ お前 | 3.1.17 オグ | |
| 2.3 アノフト 彼 | 3.1.18 オク | |
| 2.4 ワガマエ 自分 | 3.1.19 オム | |
| 2.5 ダイ 誰 | 3.1.20 オル | |
| 2.6 ナニ 何 | 3.1.21 オス | |
| 2.7 ソイ 其れ | 3.1.22 トユ | |
| 2.8 コイ 此れ | 3.1.23 ウグ | |
| 2.9 オイガト 私の | 3.1.24 ウク | |
| 2.10 コナタント お前の | 3.1.25 ウム | |

- 3.1.26 ヨム
- 3.1.27 ウル
- 3.1.28 ウス
- 3.1.29 ユル
- 3.1.30 ヤウ
- 3.1.31 ヤク
- 3.1.32 ヤル
- 3.1.33 ヤス
- 3.2 注意
- 3.3 能動動詞
 - 3.3.1 直接法
 - 3.3.2 命令法
 - 3.3.3 仮定法
 - 3.3.4 不定法
 - 3.3.5 形動詞 (分詞)
- 3.4 被働動詞
 - 3.4.1 〔直接法〕
 - 3.4.2 命令法
 - 3.4.3 仮定法
 - 3.4.4 不定法
 - 3.4.5 形動詞 (分詞)
- 3.5 人称動詞
 - 3.5.1.1 〔直接法〕
 - 3.5.1.2 〔直接法〕
 - 3.5.2 命令法
 - 3.5.3 仮定法
 - 3.5.4 不定法
 - 3.5.5 形動詞 (分詞)
- 3.6 非人称動詞
 - 3.6.1 非人称動詞 第1活用
能動
 - 3.6.1.1 〔直接法〕
 - 3.6.1.2 仮定法
 - 3.6.1.3 不定法
 - 3.6.2 非人称動詞 第1活用
被働
 - 3.6.2.1 〔直接法〕
 - 3.6.2.2 仮定法
 - 3.6.2.3 不定法
 - 3.6.3 非人称動詞 第2活用
能動
 - 3.6.3.1 〔直接法〕
 - 3.6.3.2 仮定法
 - 3.6.3.3 不定法
 - 3.6.4 非人称動詞, 被働
 - 3.6.4.1 〔直接法〕
 - 3.6.4.2 仮定法
 - 3.6.4.3 不定法
- 4.0 副詞
 - 4.1 時の
 - 4.1.1 現在の
 - 4.1.2 過去の
 - 4.1.3 将来の
 - 4.2 場所の
 - 4.2.1 「何処に」という問い
に対して
 - 4.2.2 場所から 何処からか
の問いに対して
 - 4.2.3 場所へ 何処へ, の問
いに対して
 - 4.2.4 場所を通過して どこを通
って, の問いに対して
 - 4.3 質の どのように, の問い
に対して
 - 4.4 量の どれだけの, の問い
に対して
 - 4.5 数の 何回か, の問いに対
して
 - 4.6 順序の
 - 4.7 機会の
 - 4.8 命令の
 - 4.9 説得の

- 4.10 否定の
- 4.11 禁止の
- 4.12 緊張の
- 4.13 弱まりの
- 4.14 判断の〔比較の〕
- 4.15 類似の
- 4.16 相違の
- 4.17 疑惑の
- 4.18 質問の
- 4.19 答えの
- 4.20 集合の
- 4.21 分離の
- 4.22 とり出しの又は訂正の
- 4.23 促進の
- 4.24 無限度の量の及び質の
- 4.25 道具の
- 4.26 言語の
- 4.27 秘密の
- 4.28 指示の

Краткая Грамматичка

1.0

Склоненія Ніпонских именъ разныхъ оконченіи, которые скло-
няются пороссійскимъ падежамъ.

Первое склоненіе имѣетъ окончанія на а, ая, е, ея, о, оя, уя,
ѣ, ы, у, ю.

Второе склоненіе имѣетъ окончанія на ай, и, ой, уи, ѣ, ѣ, я.

1.1 Первое склоненіе

1.1.1 на а.

Единс:

Множес:

И. кáва,	рѣка	И. каванáндо,	рѣки,
Р. кáвантъ	рѣки,	Р. каванáндонтъ,	рѣкъ,
Д. кáве	рѣкѣ,	Д. каванáнде,	рѣкамъ
В. кавáво,	рѣку,	В. каванáндово,	рѣки,
Т. кавáто,	рѣкою,	Т. каванáндото,	рѣками,
С. кавáнкотъ	ω рѣкѣ,	С. каванáндон(ко)тъ,	ω рѣкахъ

簡 略 文 法

〔1.0 名詞〕

いろいろの語尾の日本語名詞。ロシア語の諸格によつて変化させられる

第1変化はア, アヤ, エ, イェヤ, オ, オヤ, ウヤ, ё, ї, ウ, ユで終る。

〔右側はロシア語の日本語訳〕

1.1 第1変化

1.1.1 アに終る

	単 数		複 数	
主格	カワ	川は	カワナンド	川川は
生格	カワント	川の	カワナドント	” の
与格	カウェ	川に	カワナンデ	” に
対格	カワヲ	川を	カワナンドヲ	” を
造格	カワト	川によつて	カワナドント	” によって
話し格*	カワンコト	川について	カワナドンコト	” について

*ロシア語原文の C. は何ということばの省略か, 完全に明らかというわけでないが, 1965年7月11日, レニングラードの科学アカデミー病院に入院中のオ・ペトローワ女史が сказительный (話し) の略であろうと述べたのが正しいとおもう。「に就いて話す」という意味である。ロシア語文法では現在, 前置格 (предложный падеж) と呼ばれている。

1.1.2 на ая.

Единс:		Множес:	
И. сака́я,	кабакъ	И. сакаянáндo	кабаки
Р. сака́янтъ,	кабака,	Р. сакаянáндонтъ	кабакѡвъ
Д. сака́е,	кабаку	Д. сакаянáнде	кабакамъ
В. сака́яво,	кабака	В. сакаянáндово	кабаки
Т. сака́ято,	кабакомъ	Т. сакаянáндото	кабаками
С. сака́янкотъ,	ѡ кабакъ	С. сакаянáндонкотъ ѡ	кабакахъ

Прочая же имена кое тождо оконченія склоняются по сим таблицамъ по окончаніемъ подежей.

1.1.3 на е.

		каже, вѣтръ.	
Единс:		Множес:	
И. каже		И. каженандо	
Р. ентъ		Р. онтъ	
Д. ень		Д. онъ, нанде,	
В. ево		В. ово,	
Т. ето		Т. ото	
С. енкотъ		С. онкотъ	

1.1.2 アヤに終る

	単 数		複 数
主格	サカヤ	居酒屋は	サカヤナンド
生格	サカヤント	” の	サカヤナンドント
与格	サカイェ	” に	サカヤナンデ
対格	サカヤヲ	” を	サカヤナンドヲ
造格	サカヤト	” によつて	サカヤナンドト
話し格	サカヤンコト	” について	サカヤナンドンコト

同じ語尾のその他の名詞も本表の格語尾によつて変化する。

1.1.3 エに終る

	単 数	カジェ 風	複 数
主格	カジェ		カジェナンド
生格	ント		オント
与格	エニ		オニ, ナンデ
対格	エヲ		オヲ
造格	エト		オト
話し格	エンコト		オンコト

1.1.4 на ея.

штачея		швалня	
Единс:		Множес:	
И.	штачѣя	И.	штачеянáндo
Р.	ѣянтъ,	Р.	онтъ
Д.	ѣе, ѣянь,	Д.	онъ, нанде,
В.	ѣяво,	В.	овo,
Т.	ѣято,	Т.	ото,
С.	ѣянкотъ	С.	онкотъ,

1.1.5 на о

фто		человѣкъ.	
Единс:		Множес:	
И.	фто	И.	фтоначь
Р.	онтъ	Р.	чнотъ
Д.	онъ, фте,	Д.	чи,
В.	овo,	В.	чво,
Т.	ото,	Т.	что,
С.	онкотъ	С.	чнокотъ

1.1.6 на оя

чечеоя		отець	
Единс:		Множес:	
И.	чечеоя	И.	чечеоятачь
Р.	янтъ	Р.	чнотъ
Д.	янь бе,	Д.	чи,
В.	яво,	В.	чво,
Т.	ято	Т.	что,
С.	янкотъ	С.	чнокотъ

1.1.4 イェヤに終る

	シタチェヤ 仕立屋	
	単 数	複 数
主格	シタチェヤ	シタチェヤナンド
生格	イェヤント	オント
与格	イエイエ, イェヤニ	オニ, ナンデ
対格	イェヤヲ	オヲ
造格	イェヤト	オト
話し格	イェヤンコト	オンコト

1.1.5 オに終る

	フト 人	
	単 数	複 数
主格	フト	フトナチ
生格	ント	チノト
与格	オニ, フテ	チ
対格	オヲ	チヲ
造格	オト	チト
話し格	オンコト	チノコト

1.1.6 オヤに終る

	チェチェオヤ 父	
	単 数	複 数
主格	チェチェオヤ	チェチェオヤタチ
生格	ヤント	チノト
与格	ヤニ, オイエ	チ
対格	ヤヲ	チヲ
造格	ヤト	チト
話し格	ヤンコト	チノコト

1.1.7 на уя

		куя	красилникъ
		Единс:	Множес:
И.	куя		И. куянадо
Р.	янтъ		Р. онтъ
Д.	янь, уе,		Д. онь,
В.	яво,		В. ово,
Т.	ято,		Т. ото
С.	онкотъ,		С. онкотъ

1.1.8 на ъ

		фодокъ	бѣтъ
		Единс:	Множес:
И.	фодокъ		И. фодокѣтачъ
Р.	ѣнтъ		Р. чнотъ
Д.	ѣнь		Д. чи
В.	ѣво		В. чво
Т.	ѣто		Т. что
С.	ѣнкотъ		С. чнокотъ

1.1.9 на ы

		фуры	сито
		Единс:	Множес:
И.	фуры		фурынандо
Р.	ынтъ		онтъ
Д.	ынь		онь
В.	ыво		ово
Т.	ыто		ото
С.	ынкотъ		онкотъ

1.1.7 ウヤに終る

紺屋 (染物屋)

	単 数	複 数
主格	クヤ	クヤナンド
生格	ヤント	オント
与格	ヤニ, ウイエ	オニ
対格	ヤヲ	オヲ
造格	ヤト	オト
話し格	ヤンコト	オンコト

1.1.8 エに終る

フォドケ (仏) 神

	単 数	複 数
主格	フォドケ	フォドケタチ
生格	エント	チノト
与格	エニ	チ
対格	エヲ	チヲ
造格	エト	チト
話し格	エンコト	チノコト

1.1.9 i に終る

フルイ 篩

	単 数	複 数
主格	フルイ	フルナンド
生格	ウイント	オント
与格	ウイニ	オニ
対格	ウイヲ	オヲ
造格	ウイト	オト
話し格	ウインコト	オンコト

1.1.10 на у

еншу порохъ

Единс:		Множес:	
И.	ёншу	И.	ёншунáндо
Р.	унтъ	Р.	онтъ
Д.	унь	Д.	онь, нде
В.	уво	В.	ово
Т.	уто	Т.	ото
С.	ункотъ	С.	онкотъ

1.1.11 на ю

дофю рыганіе

Единс:		Множес:	
И.	дофю	И.	дофюнáндо
Р.	юнтъ	Р.	онтъ
Д.	юнь	Д.	онь, нде
В.	юво	В.	ово
Т.	юто	Т.	ото
С.	юнкотъ	С.	онкотъ

1.2 Второе склоненіе

1.2.1 на ай

Единс:		Множес:	
И.	акáй	И.	свѣтъ
Р.	акáйнотъ	Р.	свѣта (sic!)
Д.	акаи	Д.	свѣту
В.	акáйво	В.	свѣта
Т.	акáйто	Т.	свѣтомъ
С.	акáйнокотъ	С.	ω свѣтъ

Множественного числа лишается

1.1.10 ウに終る

	イェンシュ (煙硝) 火薬	
	単 数	複 数
主格	イェンシュ	イェンシュナンド
生格	ウント	オント
与格	ウニ	オニ, ンデ
対格	ウヲ	オヲ
造格	ウト	オト
話し格	ウンコト	オンコト

1.1.11 ユに終る

	ドフュー 暖気 (おくび)	
	単 数	複 数
主格	ドフュー	ドフューナンド
生格	ユント	オント
与格	ユニ	オニ, ンデ
対格	ユヲ	オヲ
造格	ユト	オト
話し格	ユンコト	オンコト

1.2 第2変化

1.2.1 アに終る

	単 数	
主格	アカイ	あかり (光) は
生格	アカイノト	— の
与格	アカイ	— に
対格	アカイヲ	— を
造格	アカイト	— と
話し格	アカインコト	— について

1.2.2 на и

		ки	древо		
		Единс:		Множес:	
И.	ки			И.	кинáндо
Р.	инóтъ			Р.	онтъ
Д.	инь			Д.	онь, нде
В.	иво			В.	ово
Т.	ито			Т.	ото
С.	инокóтъ			С.	онкотъ

1.2.3 на ой

		тóй	птица		
		Единс.		Множес.	
И.	тóй			И.	тойнáндо
Р.	йнотъ			Р.	онтъ
Д.	й			Д.	онь, нде
В.	йво			В.	ово
Т.	йто			Т.	ото
С.	йнокотъ			С.	онкотъ

1.2.4 на уй

		шаку́й	иканіе		
		Единс:		Множес:	
И.	шаку́й			И.	шакуйнáндо
Р.	йнотъ			Р.	онтъ
Д.	й			И.	онь, нде
В.	йво			В.	ово
Т.	йто			Т.	ото
С.	йнокотъ			С.	онкотъ

1.2.2 イに終る

	キ 木	
	単 数	複 数
主格	キ	キナンド
生格	イノト	オント
与格	イニ	オニ, インデ
対格	イヲ	オヲ
造格	イト	オト
話し格	イノコト	オンコト

1.2.3 オイに終る

	トイ 鳥	
	単 数	複 数
主格	トイ	トイナンド
生格	イノト	オント
与格	イ	オニ, インデ
対格	イヲ	オヲ
造格	イト	オト
話し格	イノコト	オンコト

1.2.4 ウイに終る

	シャクイ シャッキリ	
	単 数	複 数
主格	シャクイ	シャクイナンド
生格	イノト	オント
与格	イ	オニ, インデ
対格	イヲ	オヲ
造格	イト	オト
話し格	イノコト	オンコト

1.2.5 на ъ

		тамашъ	душа
		Единс:	Множес:
И.	тамáшъ		И. тамашнáндо
Р.	шнотъ		Р. онтъ
Д.	ши		Д. онъ, нде
В.	шво		В. ово
Т.	што		Т. ото
С.	шнокотъ		С. онкотъ

1.2.6 на ъ

		йкъ	духъ
		Единс:	Множес:
Й.	йкъ		И. икънáндо
Р.	инотъ		Р. онтъ
Д.	кй		Д. онъ, нде
В.	иво		В. ово
Т.	ито		Т. ото
С.	инокотъ		С. онкотъ

1.2.5 非口蓋化子音に終る

	タマシ 魂	
	単 数	複 数
主格	タマシ	タマシナンド
生格	シノト	オント
与格	シ	オニ, シンデ
対格	シヲ	オヲ
造格	シト	オト
話し格	シノコト	オンコト

1.2.6 口蓋化子音に終る

	イキ* 氣息	
	単 数	複 数
主格	イキ	イキナンド
生格	イノト	オント
与格	キ	オニ, シンデ
対格	イヲ	オヲ
造格	イト	オト
話し格	イノコト	オンコト

*イキのキは kj 又は k' (‘は口蓋化を示す). 片仮名では口蓋化した k を表わすことができないが, キと表わしておく.

1.2.7 на 1-а

1-а стрѣла

Единс:		Множес:	
И. я		И. янáндo	
Р. янотъ		Р. онтъ	
Д. янь		Д. онь, нде	
В. яво		В. ово	
Т. ято		т. ото	
С. янокотъ		С. онкотъ	

2.0 Мѣстоименіе.

2.1 Склоненія мѣстоименіи 1-апонскихъ по русскимъ падежамъ

Единс:		Множес:	
И. бй или ойга	áзъ	И. нда	мы
Р. ойгатъ	мене	Р. ндагат	насъ
Д. бре	мнѣ	Д. нде	намъ
В. бйво	меня	В. ндаво	насъ
Т. бйто	мною	т. ндато	нами
С. бйгакотъ	ω мнѣ	С. ндагакот	ω насъ

2.2

конáта ты

Единс:		Множес:	
И. конáта	ты	И. конаттачь	вы
Р. конатáнтъ	тебе	Р. конаттачнот	васъ
Д. конáте	тебѣ	Д. конаттачи	вамъ
В. конáтаво	тебе	В. конаттачво	васъ
Т. конатато	тобою	Т. конаттачто	вами
С. конатанкот	ω тебѣ	С. конаттачнот	ω васъ

1.2.7 ヤに終る

	ヤ 矢	
	単 数	複 数
主格	ヤ	ヤナンド
生格	ヤノト	オント
与格	ヤニ	オニ, インデ
対格	ヤヲ	オヲ
造格	ヤト	オト
話し格	ヤンコト	オンコト

2.0 代名詞

2.1 ロシア語の格による日本語代名詞の変化

[オイ 私]

	オイ 私		
	単 数	複 数	
主格	オイ又はオイガ	私 (俺) は	我々は
生格	オйкаト	私の	我々の
与格	オレ	私に	我々に
対格	オイヲ	私を	我々を
造格	オイト	私によつて	我々によつて
話し格	オイガコト	私について	我々について

2.2

コナタ お前

	コナタ お前			
	単 数	複 数		
主格	コナタ	お前は	コナッタチ	お前たちは
生格	コナタント	お前の	コナッタチノト	お前たちの
与格	コナテ	お前に	コナッタチ	お前たちに
対格	コナタヲ	お前を	コナッタチヲ	お前たちを
造格	コナタト	お前によつて	コナタッチト	お前たちによつて
話し格	コナタンコト	お前について	コナッタチノコト	お前たちについて

2.3 анбфто он

Единс:

Множес:

И.	анбфто	онъ	И.	аношъ	они
Р.	онтъ	онаг ω	Р.	шнот	ОНЫХЪ
Д.	онъ, е	оному	Д.	ши	ОНЫМЪ
В.	ово	онаго	В.	шво	ОНЫХЪ
Т.	ото	онымъ	Т.	што	ОНЫМИ
С.	онкот	ω ономъ	С.	шнокот	ω ОНЫХЪ

2.4 вагамае себе

2.5 дай кто

Единс:

Единс:

И.	лишается		И.	дай	кто
Р.	вагамаентъ	себе	Р.	дагатъ	ког ω
Д.	вагамае	себъ	Д.	дай	кому
В.	вагамаево	себе	В.	дайво	кого
Т.	вагамаето	собою	Т.	даито	кимъ
С.	вагамаенкот	ω себъ	С.	дагакот	ω комъ

2.6 нанъ что

И.	нанъ	что	В.	нанво	что
Р.	нанънотъ	чево	Т.	нанто	чимъ
Д.	нани	чему	С.	наннокот	ω чемъ

Сія мѣстоименія: себе, кто, что, множественног ω числа лишаются.

2.3 アノフト 彼 (あの人)

	単	数		複	数
主格	アノフト	彼は		アノシ	彼らは
生格	オント	彼の		シノト	彼らの
与格	オニ, エ	彼に		シ	彼らに
対格	オヲ	彼を		シヲ	彼らを
造格	オト	彼により		シト	彼らにより
話し格	オンコト	彼について		シノコト	彼らについて

2.4 ワガマエ 自分

2.5 ダイ 誰

	単	数			
主格	無し			ダイ	誰は
生格	ワガマエント	自分の		ダガト	誰の
与格	ワガマエ	自分に		ダイ	誰に
対格	ワガマエヲ	自分を		ダイヲ	誰を
造格	ワガマエト	自分と		ダイト	誰と
話し格	ワガマエンコト	自分について		ダガコト	誰について

2.6 ナニ 何

主格	ナニ	何は	対格	ナンヲ	何を
生格	ナニノト	何の	造格	ナント	何と
与格	ナニ	何に	話し格	ナンノコト	何について

これらの代名詞 (自分, 誰, 何) は複数がない。

2.7

сбй тбй

Единс:

Множес:

И.	сой	той	И.	сойнандо	тйи
Р.	сонотъ	тог ω	Р.	онтъ	тѣхъ
Д.	сой	тому	Д.	онь	тѣмъ
В.	сойво	того	В.	ово	тѣхъ
Т.	сойто	тѣмъ	Т.	ото	тѣми
С.	сонокот ω	томъ	С.	онкот ω	тѣхъ

2.8

кой сей

Единс:

Множес:

И.	кой	сей	И.	койнандо	сйи
Р.	конотъ	сег ω	Р.	онтъ	сйхъ
Д.	те	сему	Д.	онь	сймъ
В.	тово	сего	В.	ово	сйхъ
Т.	тото	симъ	Т.	ото	сйми
С.	тонкот ω	семъ	С.	онкот ω	сйхъ

2.9

ойгать мой

Единс:

Множес:

И.	ойгáть	мбй	И.	ойгатнандо	мой
Р.	тонть	моег ω	Р.	онтъ	моихъ
Д.	те	моему	Д.	онь	моимъ
В.	тово	моего	В.	ово	моихъ
Т.	тото	моимъ	Т.	ото	моими
С.	тонкот ω	моем	С.	онкот ω	моих

	2.7		ソイ	其れ		
		単	数		複	数
主格	ソイ		其れは		ソイナンド	それらは
生格	ソノト		その		オント	それらの
与格	ソイ		それに		オニ	それらに
対格	ソイヲ		それを		オヲ	それらを
造格	ソイト		それと		オト	それらと
話し格	ソノコト		それについて		オンコト	それらについて

	2.8		コイ	此れ		
		単	数		複	数
主格	コイ		これは		コイナンド	これらは
生格	コノト		この		オント	これらの
与格	テ		これに		オニ	これらに
対格	トヲ		これを		オヲ	これらを
造格	トト		これと		オト	これらと
話し格	トンコト		これについて		オンコト	これらについて

	2.9		オイガト	私の		
		単	数		複	数
主格	オイガト		私の		オイガト ナンド	私のものなどは
生格	トント		私のものの		ント	私のものなどの
与格	テ		私のものに		オニ	私のものなどに
対格	トヲ		私のものを		オヲ	私のものなどを
造格	トト		私のものと		オト	私のものなどと
話し格	トンコト		私のものについて		オンコト	私のものなどについて

2. 10

коната[нт] твой

Единс:

Множес:

И.	конатантъ	твой	И.	конатантнандо	твои
Р.	тонтъ	твоег ω	Р.	онтъ	твоих
Д.	тонь	твоему	Д.	онь	твоим
В.	тово	твоего	В.	ово	твоих
Т.	тото	твоим	Т.	ото	твоими
С.	тонкот	ω твоем	С.	онкот	ω твоих

2. 11

вагамонъ свой

Единс:

Множес:

И.	вагамонъ	свой	И.	вагамоннандо	свои
Р.	оннотъ	своег ω	Р.	онтъ	своих
Д.	онни	своему	Д.	онь	своим
В.	онво	своег ω	В.	ово	своих
Т.	онто	своимъ	Т.	ото	своими
С.	оннокот	ω своем	С.	онкот	ω своих

2. 12

дой кой

Единс:

Множес:

И.	дой	кой	И.	дойнандо	кой
Р.	донотъ	коег ω	Р.	онтъ	коихъ
Д.	дой	коему	Д.	онь	коимъ
В.	дойво	коего	В.	ово	коихъ
Т.	дойто	коимъ	Т.	ото	коими
С.	донокот	ω коим	С.	онкот	ω коих

	2.10		コナタ [ント]	お前の	
	単	数			複 単
主格	コナタント	お前の		コナタント ナンド	お前のものなどは
生格	トント	お前のものの		オント	お前のものなどの
与格	トニ	お前のものに		オニ	お前のものなどに
対格	トヲ	お前のものを		オヲ	お前のものなどを
造格	トト	お前のものと		オト	お前のものなどと
話し格	トンコト	お前のものについて		オンコト	お前のものなどについて

	2.11		ワガモン	自分の	
	単	数			複 数
主格	ワガモン	自分のものは		ワガモン ナンド	自分ものものなどは
生格	オンノト	自分のものの		オント	自分のものなどの
与格	オンニ	自分のものに		オニ	自分のものなどに
対格	オンヲ	自分のものを		オヲ	自分のものなどを
造格	オント	自分のものと		オト	自分のものなどと
話し格	オンノコト	自分のものについて		オンコト	自分のものなどについて

	2.12		ドイ	いずれ（どれ）	
	単	数			複 数
主格	ドイ	どれ		ドイナンド	どれなど
生格	ドノト	どれの		オント	どれなどの
与格	ドイ	どれに		オニ	どれなどに
対格	ドイヲ	どれを		オヲ	どれなどを
造格	ドイト	どれと		オト	どれなどと
話し方	ドノコト	どれについて		オンコト	どれなどについて

2. 13

дага́тъ чѣй

Единс:

Множес:

И.	дага́тъ	чѣй	И.	дагатна́ндо	чѣй
Р.	тонть	чѣгѡ	Р.	онтъ	чѣихъ
Д.	тонь	чѣему	Д.	онь	чѣимъ
В.	тово	чѣего	В.	ово	чѣихъ
Т.	тото	чѣемъ	Т.	ото	чѣими
С.	тонкот ѡ	чѣемъ	С.	онкот ѡ	чѣихъ

2. 14

анофтонть егѡ

Единс:

Множес:

И.	лишается		И.	лишается	
Р.	анофтонть	егѡ	Р.	анфтоннандо	ихъ
Д.	те	ему	Д.	онь	имъ
В.	тово	его	В.	ово	ихъ
Т.	тото	имъ	Т.	ото	ими
С.	тонкот ѡ	немъ	С.	онкот ѡ	них

2. 15

дѡнотъ ѣже, или которыи

Единс:

Множес:

И.	донѡтъ	ѣже	И.	донотнандо	ѣже
Р.	тонть	егѡже	Р.	онтъ	ѣхже
Д.	тонь	емуже	Д.	онь	ѣмже
В.	тово	егоже	В.	ово	ѣже
Т.	тото	ѣмже	Т.	ото	ѣимиже
С.	тонкотъ ѡ	немже	С.	онкот ѡ	ѣнихже

3.0 ГЛАГОЛЬ

Спряженіе глаголовъ 1-апонскихъ, по россіискимъ наклоненіямъ спрягаемыя [sic!]

3.1 Окончанія глаголовъ 1-апонскихъ.

на

- | | | | |
|--------|-----|---|-----------------------|
| 3.1.1 | авъ | { | наравъ
учуся |
| 3.1.2 | агъ | { | всагъ
закрываю |
| 3.1.3 | акъ | { | какъ
пишу |
| 3.1.4 | амъ | { | казамъ
нюхаю |
| 3.1.5 | аръ | { | наръ
могу |
| 3.1.6 | асъ | { | дасъ
происпускаю |
| 3.1.7 | ацъ | { | тацъ
выкраиваю |
| 3.1.8 | вою | { | навою
наименую |
| 3.1.9 | егъ | { | оегъ
плаваю |
| 3.1.10 | екъ | { | шекъ
понуждаю |
| 3.1.11 | енъ | { | юрашенъ
недопускаю |
| 3.1.12 | еръ | { | каеръ
обращаюся |
| 3.1.13 | икъ | { | икъ
иду |
| 3.1.14 | иръ | { | миръ
вижу |

3.0 動 詞

ロシア語式に活用される日本語動詞活用

3.1 日本語動詞の語尾

語 尾

- | | | |
|--------|-------------|-------------------|
| 3.1.1 | アウ | ナラウ「習う」 |
| 3.1.2 | アグ | フサグ「ふさぐ」 |
| 3.1.3 | アク | カク「書く」 |
| 3.1.4 | アム | カザム「嗅ぐ」 |
| 3.1.5 | アル | ナル「出来る」 |
| 3.1.6 | アス | ダス「出す」 |
| 3.1.7 | アツ | タツ「裁つ」 |
| 3.1.8 | ヲユ | ナヲユ「名を言う」 |
| 3.1.9 | イエグ
(ヨグ) | オイェグ「泳ぐ」
(オヨグ) |
| 3.1.10 | イエク | シェク「強制する」 |
| 3.1.11 | イエン | ヨラシェン「許さない」 |
| 3.1.12 | イェル | カイェル「向きかわる」 |
| 3.1.13 | イク | イク「行く」 |
| 3.1.14 | イル | ミル「見る」 |

3. 1. 15 ку { учку
 { поядаю
3. 1. 16 обѣ { тобѣ
 { лѣтаю
3. 1. 17 огу { ногу
 { отираю
3. 1. 18 окѣ { окѣ
 { кладу
3. 1. 19 омѣ { учкомѣ
 { прибываю
3. 1. 20 орѣ { орѣ
 { есмь
1. 1. 21 ось { тобось
 { свѣтю(sic!)
3. 1. 22 тѣю { киппаит(ѣ)ю
 { выговариваю
3. 1. 23 угѣ { цугѣ
 { наливаю
3. 1. 24 укѣ { сукѣ
 { люблю
3. 1. 25 умѣ { умѣ
 { пряду
3. 1. 26 юмѣ { юмѣ
 { читаю
3. 1. 27 урѣ { сурѣ
 { дѣлаю
3. 1. 28 усѣ { юрусѣ
 { отпущаю
3. 1. 29 юрѣ { осбюрѣ
 { научаю
3. 1. 30 явѣ { мѣявѣ
 { усматраю
3. 1. 31 якѣ { якѣ
 { жгу
3. 1. 32 ярѣ { ярѣ
 { даю

- | | | |
|--------|----|------------------|
| 3.1.15 | ク | ウチク「うち食う」(食いつくす) |
| 3.1.16 | オブ | トブ「飛ぶ」 |
| 3.1.17 | オグ | ノグ「拭う」 |
| 3.1.18 | オク | オク「置く」 |
| 3.1.19 | オム | ウチコム「打ちこむ」 |
| 3.1.20 | オル | オル「居ル」 |
| 3.1.21 | オス | トボス「(火を)ともす」 |
| 3.1.22 | トユ | キツパイトユ「きっぱりと言う」 |
| 3.1.23 | ウグ | ツグ「注ぐ」 |
| 3.1.24 | ウク | スク「好く」 |
| 3.1.25 | ウム | ウム「紡ぐ」 |
| 3.1.26 | ヨム | ヨム「読む」 |
| 3.1.27 | ウル | スル「為る」 |
| 3.1.28 | ウス | ユルス「放免する」 |
| 3.1.29 | ユル | オソユル「教える」 |
| 3.1.30 | ヤウ | ミヤウ「見張る」 |
| 3.1.31 | ヤク | ヤク「焼く」 |
| 3.1.32 | ヤル | ヤル「与える」 |

3. 1. 33 ясь { оясъ
 питаю

3.2 Зри:

Из вышеписанныхъ окончаніи глаголов которые кончатся всѣ на ѣ, кромѣ сихъ дву[х] окончаніи, на ою, и на у, однакожъ почти всѣ по одному правилу спрягаться могутъ.

3.3 Глаголъ дѣйствительный

3.3.1 из'явительнаго наклоненія.

	Един:																																						
Нс: {	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 50%; text-align: center;">Един:</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">ойга осюоръ</td><td style="width: 50%;"></td></tr> <tr><td>коната осоеярка</td><td></td></tr> <tr><td>анофто осоераръ</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">Множ:</td></tr> <tr><td>нда осюоръ</td><td></td></tr> <tr><td>конаттачь осоеярка</td><td></td></tr> <tr><td>аноштачь осоераръ</td><td></td></tr> </table> </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">я... учу</td><td style="width: 50%;"></td></tr> <tr><td>ты учиши</td><td></td></tr> <tr><td>онъ</td><td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td></tr> <tr><td>она</td></tr> <tr><td>оно</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">Множ:</td></tr> <tr><td>мы учимъ</td><td></td></tr> <tr><td>вы учите</td><td></td></tr> <tr><td>они</td><td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td></tr> <tr><td>оны</td></tr> <tr><td>она</td></tr> </table> </td> </tr> </tbody> </table>		Един:		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">ойга осюоръ</td><td style="width: 50%;"></td></tr> <tr><td>коната осоеярка</td><td></td></tr> <tr><td>анофто осоераръ</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">Множ:</td></tr> <tr><td>нда осюоръ</td><td></td></tr> <tr><td>конаттачь осоеярка</td><td></td></tr> <tr><td>аноштачь осоераръ</td><td></td></tr> </table>	ойга осюоръ		коната осоеярка		анофто осоераръ		Множ:		нда осюоръ		конаттачь осоеярка		аноштачь осоераръ			<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">я... учу</td><td style="width: 50%;"></td></tr> <tr><td>ты учиши</td><td></td></tr> <tr><td>онъ</td><td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td></tr> <tr><td>она</td></tr> <tr><td>оно</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">Множ:</td></tr> <tr><td>мы учимъ</td><td></td></tr> <tr><td>вы учите</td><td></td></tr> <tr><td>они</td><td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td></tr> <tr><td>оны</td></tr> <tr><td>она</td></tr> </table>	я... учу		ты учиши		онъ	}	она	оно	Множ:		мы учимъ		вы учите		они	}	оны	она
	Един:																																						
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">ойга осюоръ</td><td style="width: 50%;"></td></tr> <tr><td>коната осоеярка</td><td></td></tr> <tr><td>анофто осоераръ</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">Множ:</td></tr> <tr><td>нда осюоръ</td><td></td></tr> <tr><td>конаттачь осоеярка</td><td></td></tr> <tr><td>аноштачь осоераръ</td><td></td></tr> </table>	ойга осюоръ		коната осоеярка		анофто осоераръ		Множ:		нда осюоръ		конаттачь осоеярка		аноштачь осоераръ																									
ойга осюоръ																																							
коната осоеярка																																							
анофто осоераръ																																							
Множ:																																							
нда осюоръ																																							
конаттачь осоеярка																																							
аноштачь осоераръ																																							
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">я... учу</td><td style="width: 50%;"></td></tr> <tr><td>ты учиши</td><td></td></tr> <tr><td>онъ</td><td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td></tr> <tr><td>она</td></tr> <tr><td>оно</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">Множ:</td></tr> <tr><td>мы учимъ</td><td></td></tr> <tr><td>вы учите</td><td></td></tr> <tr><td>они</td><td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td></tr> <tr><td>оны</td></tr> <tr><td>она</td></tr> </table>	я... учу		ты учиши		онъ	}	она	оно	Множ:		мы учимъ		вы учите		они	}	оны	она																				
я... учу																																							
ты учиши																																							
онъ	}																																						
она																																							
оно																																							
Множ:																																							
мы учимъ																																							
вы учите																																							
они	}																																						
оны																																							
она																																							

3.1.33 ヤス オヤス「養う」

3.2 注意

上記の動詞はオユとウに終るものを除いて凡て硬子音に終り、これらはほとんど全部、ひとつの規則で活用できる。

3.3 能動動詞

3.3.1 直接法

		単	数		単	数
現在	}	オイガ	オソユル		私は教える	
		コナタ	オソエヤルカ		お前は教える	
		アノフト	オソエラル		彼	} は教える
					彼女	
					それ	

	Един:
пш:	ойга осоеета
	коната осоеятта
	анофто осоератта
	Множ:
пш:	нда осоеета
	конаттачь осоеятта
	аноштачь осоератта

	Един:	
пш:	я	училь
	ты	
	онъ	
	она	учила
	оно	учило
	Множ:	
пш:	мы	учили
	вы	
	они	
	оны	учила
	она	

	Един:
бд.	ойга осоею
	конатан осоеярка
	анофтон осоеярю
	Множ:
бд.	нда осоею
	конаттачь осоеярка
	аноштачь осоеярю

	Един:		
бд.	я	научить	
	ты		научиши
	онъ		
	она	научатъ	
	оно		
	Множ:		
бд.	мы	научатъ	
	вы		научите
	они		
	оны	научатъ	
	она		

		単	数			単	数
過去	}	オイガ	オソエタ	}	}	私	は教えた
		コナタ	オソエヤッタ			お前	
		アノフト	オソエラッタ			彼	
						彼女は教えた	
						それは教えた	
		複	数			複	数
	}	ンダ	オソエタ	}	}	我々	は教えた
		コナッタチ	オソエヤッタ			お前ら	
		アノシタチ	オソエラッタ			彼ら	
					彼女ら		
					それらは教えた		

		単	数			単	数
未来	}	オイガ	オソユ	}	}	私は教えるだろう	
		コナタン	オソエヤルカ			お前は教えるだろう	
		アノフトン	オソエラユ			彼	
					彼女は	〃	
					それ	〃	
		複	数			複	数
	}	ンダ	オソユ	}	}	我々は	〃
		コナッタチ	オソエヤルカ			お前らは	〃
		アノシタチ	オソエラユ			彼ら	
					彼女ら		
					それら		
					は	〃	

3.3.2 Повелительное

Нс: коната осое.
бд:

Нс: учи. ты
бл: научи.

3.3.3 Сослагательное

	Един:	Нс:	Един:
икенмо	{	Ежели бы	{ я } училь
			{ ты } училь
			{ онъ } училь
			{ она } учила
			{ оно } учило
	Множ:		Множ:
икеммо	{	Ежели бы	{ мы } учили
			{ вы } учили
			{ они } учили
			{ оны } учили
			{ она } учила

Прешедшее

	Един:	Един:
икенмо	{	{ я } научиль
		{ ты } научиль
		{ онъ } научиль
		{ она } научила
		{ оно } научило
	Множ:	Множ:
	{	{ мы } научили
		{ вы } научили
		{ они } научили
		{ оны } научили
		{ она } научила

3.3.2 命令法

現在	コナタ	オソエ	現在	教えよ	お前
未来			未来	教えよ	

3.3.3 仮定法

	単	数	現	在		単	数
イケンモ	{	オイガ	オソユルナラ	もしも	}	私	} 教えるなら
		コナタン	オソユルナラ			お前	
		アノフトン	オソエラルナラ			彼が	
						彼女が	//
						それが	//
	複	数			複	数	
イケンモ	{	ンダガ	オソユルナラ	もしも	}	我々	} が //
		コナッタチ	オソエヤルナラ			お前ら	
		アノシタチ	オソエラルナラ			彼ら	
						彼女	
						らそれらが	//
			過	去			
	単	数			単	数	
イケンモ	{	オイガ	オソエタナラ	もしも	}	私	} が教えたなら
		コナタン	オソエヤッタナラ			お前	
		アノフトン	オソエラッタナラ			彼	
						彼女が	//
						それが	//
	複	数			複	数	
イケンモ	{	ンダガ	オソエタナラ	もしも	}	我々	} が //
		コナッタチ	オソエヤッタナラ			お前ら	
		アノシタチ	オソエラッタナラ			彼ら	
						彼女ら	
						それらが	//

Будущее

<p style="text-align: center;">Елин.</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">ойга осоюрнара конатан осолярнара анофтон осоерарнара</div> </div> <p style="margin-top: 20px; text-align: center;">Множ:</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">ндага осоюрнара конаттачь осолярнара аноштачь осоерарнара</div> </div>	<p style="text-align: center;">Елин.</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">я научу ты научиши онъ } она } научить оно }</div> </div> <p style="margin-top: 20px; text-align: center;">Ежели</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">Множе: мы научимъ вы научите они } оны } научатъ она }</div> </div>
---	---

3. 3. 4

Неопредѣленное

<p style="text-align: center;">Един:</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">оре конате } осоече анофте }</div> </div> <p style="margin-top: 20px; text-align: center;">Множ.</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">нде конаттачи } осоече аноштачи }</div> </div>	<p style="text-align: center;">нс.</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">мнѣ тебѣ } учити оному }</div> </div> <p style="text-align: center;">и</p> <p style="text-align: center;">бд.</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">Множ. намъ } научити вамъ } оным }</div> </div>
--	--

3. 3. 5

Причастіе

нс: осоюргъ
пш: осоеатать
бд: осоюргъ

нс: учащїи
пш: научившіи
бд: научающїи

未 来						
	単 数		単 数			
イケンモ	{	オイガ	オソユルナラ	{	私が教えるなら	
		コナタン	オソエヤルナラ		お前が " "	
		アノフトン	オソエラルナラ		彼	
	}	複 数	もしも	複 数	}	彼女 } が " "
		ンダガ	オソユルナラ	それ		我々が " "
		コナッタチ	オソエヤルナラ	お前が " "		
}	アノシタチ	オソエラルナラ	彼ら	}	彼女ら } が " "	
			それら			

3.3.4 不定法

	単 数					
現 在 と 〔未来〕	{	オレ	}	オソエチェ	{	私に (とつて) 教えること
		コナテ		お前に (") " "		
		アノフテ		彼に (") " "		
	}	複 数	と	複 数	}	我々に (") " "
		ンデ	}	オソエチェ		お前に (") " "
		コナッタチ		彼らに (") " "		
}	アノシタチ					

3.3.5 形動詞 (分詞)

現在	オソユルト	現在	教えるところの
過去	オソエタト	過去	教えたところの
未来	オソユルト	未来	教えるだろうところの

3.4 Глагол страдателни

3.4.1 [изъявительного наклонения]

Един:	Един:
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">нс:</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>ойга наравъ</p> <p>коната нареярка</p> <p>анофто нараваръ</p> <p style="text-align: center;">Множ.</p> <p>Ндага наравъ</p> <p>конаттачь нареярка</p> <p>аноштачь нараваръ</p> </div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">нс:</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>я учуся</p> <p>ты учишися</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 5px;">}</div> <div style="margin-right: 5px;">онъ</div> <div style="margin-right: 5px;">она</div> <div style="margin-right: 5px;">оно</div> <div style="margin-left: 5px;">}</div> <div style="margin-left: 10px;">[учится]</div> </div> <p style="text-align: center;">множе.</p> <p>мы учимся</p> <p>вы учитесь</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 5px;">}</div> <div style="margin-right: 5px;">они</div> <div style="margin-right: 5px;">оны</div> <div style="margin-right: 5px;">она</div> <div style="margin-left: 5px;">}</div> <div style="margin-left: 10px;">учатся</div> </div> </div> </div>

Един.	Един.
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">пш:</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>ойга нарота</p> <p>коната нареяттака</p> <p>анофто нараватта</p> </div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">пш:</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>я</p> <p>ты</p> <p>онъ</p> <p>она научилася</p> <p>оно научилося</p> </div> </div>
<p>Множ.</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">пш:</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>ндага нарота</p> <p>конаттачь нареяттака</p> <p>аноштачь нараватта</p> </div> </div>	<p>Множ.</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">пш:</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>мы</p> <p>вы</p> <p>они</p> <p>оны</p> <p>она научилася</p> </div> </div>

3.4 被働動詞〔ロシア語で再帰代名詞から発達した -ся がついた動詞〕

3.4.1 〔直接法〕

	単 数		単 数
現在	オイガ	ナラウ	私 } お前 } 彼 } は学ぶ 彼女 } それ }
	コナタ	ナレヤルカ	
	アノフト	ナラワル	
	複 数		複 数
過去	ンダガ	ナラウ	我々は 学ぶ お前らは " 彼ら } 彼女ら } は学ぶ それら }
	コナッタチ	ナレヤルカ	
	アノシタチ	ナラワル	
	単 数		単 数
過去	オイガ	ナロタ	私 } お前 } は学んだ 彼 } 彼女は " それは " 過去
	コナタ	ナレヤッタカ	
	アノフト	ナラワッタ	
	複 数		複 数
過去	ンダガ	ナロタ	我々 } お前ら } は学んだ 彼ら } 彼女ら } それらは学んだ
	コナッタチ	ナレヤッタカ	
	アノシタチ	ナラワッタ	

	Един:		Един:
[бд:]	{	ойга нараво	я [научуся]
		коната нареярка	ты [научишься]
		анофто нараваю	онъ } [научится]
		она } [научится]	
		оно }	
	Множ.		Множ.
{	нда нараво	мы научимся	
	конаттачь нареярка	вы научитесь	
	аноштачь нараваю	они } научатся	
		оны } научатся	
		она }	

3.4.2 Повелительное

нс: }	коната нараве	нс: }	ты	учися
бд: }		бд: }		научися

3.4.3 Сослагательное

настоящее

	Един:		Един:		
икеньмо	{	ойга наротанара	{	я	} учился
		коната нареяттанара		ты	
		анофто нараваттанара		онъ	
		ежели	она		
		бы	оно		
	Множ.		Множ.		
{	ндага наротанара	{	мы	} училися	
	конаттачь нареяттанара		вы		
	аноштачь нараваттанара		они		
			оны		
		она	она училася		

未来	単 数	オイガ	ナラヲ	私は	学ぶだろう
		コナタ	ナレヤルカ	お前は	〃
		アノフト	ナラワユ	彼	} は 〃
			彼女		
			それ		
	複 数	ンダ	ナラヲ	我々は	学ぶだろう
コナッタチ		ナレヤルカ	お前らは	〃	
アノシタチ		ナラワユ	彼ら	} は 〃	
		彼女ら			
		それら			

3.4.2 命令法

現在	コナタ	ナラウェ	現在	お前	学べよ
未来			未来		学べよ

3.4.3 仮定法

イケンモ	単 数	オイガ	ナロタナラ	もしも	私	} 学んだなら
		コナタ	ナレヤッタナラ		お前	
		アノフト	ナラワッタナラ		彼が	
				彼女が	} が学んだなら	
				それが		
複 数	ンダガ	ナロタナラ	もしも	我々	} が学んだなら	
	コナッタチ	ナレヤッタナラ		お前ら		
	アノシタチ	ナラワッタナラ		彼ら		
			彼女ら	} が学んだなら		
			それらが		〃	

Прешедшее

		Един:				Един:	
икенмо	$\left\{ \begin{array}{l} \text{ойга} \\ \text{коната} \\ \text{анофто} \end{array} \right\}$	нароче	$\left\{ \begin{array}{l} \text{оттанара} \\ \text{оїяттанара} \\ \text{ораттанара} \end{array} \right\}$	ежели	$\left\{ \begin{array}{l} \text{я} \\ \text{ты} \\ \text{онъ} \end{array} \right\}$	$\left. \begin{array}{l} \text{научен былъ} \\ \text{она научена была} \\ \text{оно научено было} \end{array} \right\}$	
		Множ:				Множ:	
икенмо	$\left\{ \begin{array}{l} \text{ндага} \\ \text{конатгачъ} \\ \text{аноштачъ} \end{array} \right\}$	нарочъ	$\left\{ \begin{array}{l} \text{оттанара} \\ \text{оїяттанара} \\ \text{ораттанара} \end{array} \right\}$	ежели	$\left\{ \begin{array}{l} \text{мы} \\ \text{вы} \\ \text{они} \\ \text{оны} \end{array} \right\}$	$\left. \begin{array}{l} \text{научени} \\ \text{были} \\ \text{научена} \\ \text{была} \end{array} \right\}$	

Будущее

		Един:				Един:	
икенмо	$\left\{ \begin{array}{l} \text{ойга нарочнара} \\ \text{коната нареячнара} \\ \text{анофто нараваचनाра} \end{array} \right\}$			ежели	$\left\{ \begin{array}{l} \text{я выучуся} \\ \text{ты выучишися} \\ \text{онъ} \\ \text{она} \\ \text{оно} \end{array} \right\}$	$\left. \begin{array}{l} \text{выучится} \\ \text{выучатся} \end{array} \right\}$	
		Множ:				Множ:	
икенмо	$\left\{ \begin{array}{l} \text{ндага нарочнара} \\ \text{конатгачъ нареячнара} \\ \text{аноштачъ нараваचनाра} \end{array} \right\}$			ежели	$\left\{ \begin{array}{l} \text{мы выучимся} \\ \text{вы выучитесь} \\ \text{они} \\ \text{оны} \end{array} \right\}$	$\left. \begin{array}{l} \text{выучатся} \\ \text{она} \end{array} \right\}$	

3.4.4 Неопределенное

	[Един.]	
нс:	{	оре
		конате
		анофте
		Множ:
и бд:	}	нде
		конаттачи
		аноштаци
		нароче

		Един.
нс:	{	мнѣ
		тебѣ
		оному
и бд:	}	учитися
		Множ:
		намѣ
	}	вамѣ
		онымѣ
		выучитися

3.4.5. Причастіе

нс: наравтъ

пш: наротать

бд: наравтъ

нс: учащїися

пш: научившїися

бд: научающїися

3.5 Глагол личные

3.5.1.1 [изъявительного наклонения]

	Един.	
нс:	{	ойга оръ
		коната оіярка
		анофто ораръ
		Множе.
		ндага оръ
		конаттачь оіярка
	}	аноштачь ораръ

нс:	{	азь есмь
		ты еси
		онъ
		она
		оно
		мы есмы
		вы есте
		они
		оны
		она

3.4.4 不定法

	〔単 数〕		単 数						
現在 と 未来	}	ナロチェ	}	私に (とつて)	} 学ぶこと 〔が必要だ〕				
				お前に (")					
				彼に (")					
					複 数		複 数		
				}	}	}	}	我々に (とつて)	} 学ぶこと 〔が必要だ〕
								お前らに (")	
彼らに (")									

3.4.5 形動詞 (分詞)

現在	ナラウト	現在	学ぶところの
過去	ナロタト	過去	学んだところの
未来	ナラウト	未来	学ぶだろうところの

3.5 人称動詞〔存在動詞が示されている〕

3.5.1.1 〔直接法〕

	単 数							
現在	}	オイガ	オル	}	私は	ある		
		コナタ	オイヤルカ		お前は	"		
		アノフト	オラル		彼	} は "		
					彼女			
			複 数			複 数		
		}	}		}	}	ンダガ	オル
コナッタチ	オイヤルカ			お前らはある				
アノシタチ	オラル			彼ら			} はある	
				彼女ら				
				それら				

Един:

ойга отга
 коната оіяттака
 анофто оратта

пш: {

[Множ.]

ндага отга
 конаттачь оіятака[sic!]
 аноштачь оратта

Един:

я }
 ты } былъ
 онъ }
 она была
 оно было

пш: { Множ:

мы }
 вы } были
 они }
 оны }
 она была

един:

ойга оро
 коната оіярка
 анофто ораю

бд: {

Множ.

ндага оро
 конаттачь оіярка
 аноштачь ораю

я буду
 ты будеши
 онъ }
 она } будетъ
 оно }

бд: { Множ.

мы будемъ
 вы будетъ(sic!)
 они }
 оны } будутъ
 она }

		単	数	
過去	{	オイガ	オッタ	
		コナタ	オイヤッタカ	
		アノフト	オラッタ	
			[複	数]
		ンダガ	オッタ	
		コナッタチ	オイヤタカ	[ママ]
	アノシタチ	オラッタ		

		単	数
過去	{	私	
		お前	はあつた
		彼	
		彼女は	〃
		複	数
		我々	
		お前ら	はあつた
		彼ら	
	彼女ら		
	それらはあつた		

		単	数	
未来	{	オイガ	オロ	
		コナタ	オイヤルカ	
		アノフト	オラユ	
			複	数
		ンダガ	オロ	
		コナッタチ	オイヤルカ	
	アノシタチ	オラユ		

未来	{	私は	あるだろう
		お前は	〃
		彼	
		彼女は	は 〃
		それ	
		複	数
		我々は	あるだろう
		お前らは	〃
	彼ら		
	彼女ら	は 〃	
	それら		

будущее на мѣстѣ стоянїя, то есть быть кому в'том или оком мѣстѣ

3.5.1.2

	Един.		Един.	
бд.	{	ойга ку	{	
		коната кїярка		я буду
		анофто гозаю		ты будеши
			бд.	
			{	
		онѣ		будеть
		она		
		оно		
	Множ.		Множ.	
бд.	{	нда ку	{	
		конаттачь кїярка		мы будемъ
		аношачь гозаю		вы будете
			бд.	
			{	
		они		будутъ
		оны		
		она		

будшее к'мѣсту нѣкоему движенїе то есть быть кому к'какому мѣсту или къ тому или оному.

3.5.2 Повелительное

нс:	} кїяй коната	нс:	} буди ты
бд:		бд:	

3.5.3 Сослагательное

		настоящее		
	Един:		Един:	
[икенмо]	{	ойга орѣ	{	
		коната оїярка		я есмь
		анофто орарь		ты еси
			}	
		онѣ		есть
		она		
		оно		
	Множ.		Множ.	
	{	ндага орѣ	{	
		конаттачь оїярка		мы есмы
		аноштачь орарь		вы есте
			Ежели	
			бы	
			{	
		они		суть
		оны		
		она		

存在の場所にいるだろうこと (未来) を示す. すなわち, 或る場所にいるだろうこと (未来) を示す.

3.5.1.2 〔直接法〕

	単 数		単 数		
未来	{	オイガ ク〔来〕	未来	{	私は あるだろう
		コナタ キヤルカ〔来ヤルカ〕			お前は "
		アノフト ゴザロ			{
					彼女
					それ
					} は "
	複 数		複 数		
未来	{	ンダ ク〔来〕	未来	{	我々は あるだろう
		コナッタチ キヤルカ			お前たちは "
		アノシタチ ゴザユ			{
					彼女ら
					それら
					} は "

ある場所に向つてあること, ある場所への動きを示す.

3.5.2 命令法

現在	キヤイ	コナタ	現在	来よ	お前は
未来			未来		

3.5.3 仮定法

		現 在				
〔イ	ケ	単 数	もしも	単 数		
		{		オイガ オル	{	私が ある
				コナタ オイヤルカ		お前が "
ン	モ			{	彼	
			アノフト オラル		彼女	
					それ	
		複 数			} が "	
				複 数		
		{	ンダガ オル	{	我々が ある	
			コナッタチ オイヤルカ		お前が "	
			アノシタチ オラル		{	彼ら
						彼女ら
						それら
						} が "

〔ロシア語の語形に誤りがあると見られる〕

Прешедшее

Един.			Един.		
икенмо	{	ойга отта	Ежели	}	я
		коната оіяттака			ты
		анофто оратта			онъ
			бы		былъ
					она была
					оно было

Прешедшее

Множ:			Множ:		
икенмо	{	ндага отта	Ежели	}	мы
		конаттачь оіяттака			вы
		аноштачь оратта			они
			бы		были
					оны
					она была

Будущее

Един:			Един:	
ойга орнара	}	я буду	}	я буду
коната оіярнара		ты будеши		ты будеши
анофто орарнара		онъ		она
		она	}	будеть
		оно		оно
Множ.			Множ.	
ндага орнара		мы будемъ		мы будемъ
конаттачь оіярнара		вы будете		вы будете
аноштачь орарнара		они	}	будуть
		оны		
		она		

3.5.4 Неопредѣленное

нс: очче

нс: быти

過 去

	単 数	
イ ケ ン モ	オイガ	オッタ
	コナタ	オイヤッタカ
	アノフト	オラッタ

	単 数	
もしも	私 お前 彼	がいたなら
	彼女	がいたなら
	それ	がいたなら

過 去

	複 数	
イ ケ ン モ	ンダガ	オッタ
	コナッタチ	オイヤッタカ
	アノシタチ	オラッタ

	複 数	
もしも	我々 お前ら 彼ら 彼女ら	がいたなら
	それら	がいたなら

未 来

	単 数	
オイガ	オルナラ	
コナタ	オイヤルナラ	
アノフト	オラルナラ	

	単 数	
私 お前 彼 彼女 それ	があるだろう	
	が "	
	が "	
	が "	
複 数	があるだろう	
	が "	
	が "	

	複 数	
ンダガ	オルナラ	
コナッタチ	オイヤルナラ	
アノシタチ	オラルナラ	

3.5.4 不定法

現在 オツチェ

現在 有ること

3.5.5 Причастіе

нс: фоннотъ	нс: сушіи, сушая, сущее
пш: оттатъ	пш: бывшіи, бывшая, бывшее
бд: куртъ	бд: будущіи, будущая, будущее

3.6 Глагол безличныи

3.6.1 дѣйствительныи перваго спряженія

3.6.1.1. [изъявительного наклоненія]

нс: } шенянаранъ	{ нс: подobaеть
бд: }	{ бд: восподobaеть

3.6.1.2 Сослагательное

*пх: } икенмо шенянараджатта	{ *пх: аще бы подobaше
*пш: }	{ *пш: аще бяше подobaло

3.6.1.3 Неопредѣленное

нс. } шенянараджена	{ нс. подobaти
бд. }	{ бд. восподobaти

3.6.2 Глаголь безличныи страдателныи перваго спряженія

3.6.2.1 [изъявительного наклоненія]

нс. аркотгааръ	нс. случается
пш. аркотгаатта	пш. случи[л]ся
бд. аркотгааро	бд. случится

3.6.2.2 Сослагательное

*пх. } икенмо аркотгааттанара	{ *пх. ащебы случилось
*пш. }	{ *пш. аще бяше случилось
бд. икенмо аркотгаарнара	бд. ащебы случилось

3.5.5 形動詞 (分詞)

現在	フォンノト	現在	有るところの
過去	オットト	過去	有つたところの
未来	クルト〔来ル〕	未来	有るだろうところの

3.6 非人称動詞

3.6.1 第1活用能動

3.6.1.1 〔直接法〕

現在}	シェニャナラン	現在	なすべきである
未来}		未来	なすべきだろう

3.6.1.2 仮定法

不完了態過去}	イケンモ シェニャナラヂャッタ	不完了態過去	なすべきだったなら
完了態過去}		完了態過去	なすべきだつたなら

3.6.1.3 不定法

現在}	シェニャナラヂェナ	現在	なすべきであること
未来}		未来	なすべきであろうこと

3.6.2 非人称動詞, 第1活用被働

3.6.2.1 〔直接法〕

現在	アルコトガアル	現在	偶然に起る
過去	アルコトガアッタ	過去	偶然に起つた
未来	アルコトガアロ	未来	偶然に起るだろう

3.6.2.2 仮定法

過去	イケンモ アルコトガアッタナラ	*不完了態過去(пх.)	もしも偶然起つたなら
		*完了態過去(пш.)	” ”
未来	イケンモ アルコトガアルナラ	未 来	もしも偶然起るとしたら

*пх. は проходившее の略と見られる. пш. は прешедшее の略. пш. のみのときは「過去」と訳し, пх. пш. が並列してしてあるときは前者を「不完了態過去」後者を「完了態過去」と訳す.

3.6.2.3 Неопределенное

нс: } аркотгаачче	нс: случатися
бд: }	бд: случитися

3.6.3 Гль безличныи действительныи вторагω спряженія

3.6.3.1 [изъявительного наклонения]

нс: куреньаръ	нс: дастоить[sic!]
пх: куреньатта	пх: достояте
бд: куреньаро	бд: воздостоять

3.6.3.2 Сослагательное

пх: } икенмо {куреньатта	пх: } аще бы {достояло
бд: } {куреньаро	бд: } {воздостояло

3.6.3.3 Неопределенное

нс: } куреньначче	нс: достояти
бд: }	бд: воздостояти

3.6.4 Глаголь безличныи страдателныи

3.6.4.1 [изъявительного наклонения]

нс: гачченшераенъ	нс: мнится
пх: } гачченшераеджатта	пх: мняшесея
пш: }	пш: возмнѣся
бд: гачченшераюрме	бд: возмнится

3.6.4.2 Сослагательное

пх: } икенмо {гачченшераеджатта	пх: дабы мнѣлося
пш: }	пш: да бяше } возмнѣлося
бд: } {гачченшераюрме	бд: дабы }

3.6.4.3 Неопределенное

нс: } гачченшеджена	нс: мнѣтися
бд: }	бд: возмнѣтися

3.6.2.3 不定法

現在} アルコトガアッチェ
未来}

現在 偶然に起ること
未来 偶然に起るだろうこと

3.6.3 非人称動詞第2活用, 能動

3.6.3.1 〔直接法〕

現在 クレニアル〔位にある〕
不完了過去 クレニアッタ
未来 クレニアロ

現在 価値がある
不完了態過去 価値があつた
未来 価値があるだろう

3.6.3.2 仮定法

不完了過去} イケ {クレニアッタ
未 来} ンモ {クレニアロ

不完了態過去} もしも {価値があつたら
未 来} {価値があるなら

3.6.3.3 不定法

現在} クレニナッチェ
未来}

現在 価値があること
未来 価値があるだろうこと

3.6.4 非人称動詞, 被働

3.6.4.1 〔直接法〕

現在 ガッチェンシェラエン
不完了態過去} ガッチェンシェラエヂャッタ
完了態過去}
未来 ガッチェンシェラユルメ

現在 思われる
不完了態過去 思われた
完了態過去 〃
未来 思われるだろう

3.6.4.2 仮定法

不完了態過去} イケ {ガッチェンシェ
完了態過去} ンモ {ラエジャン
未 来} {ガッチェン
ラユルメ

不完了態過去 思われるようにと
完了態過去} 思われるようにと
未 来}

3.6.4.3 不定法

現在} ガッチェンシェヂェナ
未来}

現在 思われること
未来 思われるだろうこと

4.0 Наречіе

4.1 1. [以下ゴチ体活字数字は原文] време

4.1.1 настоящаѿ

кю	дней[sic!] сеѿ дни, сеѿ дни
има	нынѣ нынѣ нынича, нонѣ
иттокъшчекара ночь	уже вотъ вотѣ теперь
ашта фаѿ аса	заутра завтра, рано, поутру
осу, банни, ѳноичкара	поздѣ {поздѿ, вночномѣ часу, ввечеру
ицдуй	донелѣже покамѣсть, пока
имамаджь, имадуй	доселѣ {до сеѿ часу, до сеѿ времени, по се время
ицдуи	кондеже(?) покамѣсть, доколѣ
фяттѣ	выну всегда
шигю, 1-амѣджена	приснѿ безпрестани, частѿ

4.1.2 Прешедшагѿ

мукашѣ	древле давнѿ, ужѣ прошлѿ
кино	вчера вчерасѣ
фаѿкара, саки, фаѿ	прежде пржде первѿ
кѳненѣ	лони в'прошломѣ годѣ
сѿѳѳсаки	первѣе попрежде, попереже
фажмайкара, фажмай	искони с'начала
иччѣ фаѿкара, шекенѣфажмай- кара	исперва {ѿт начала, ѿт созданія мѣра, ѿт начала свѣта

4.1.3 Глядушагѿ

сонтокѣ кара	ѿттолѣ ѿтговѿ времени
мотаксе не	некому ужѣ болше не.
мадане	не у еще не.
асакара	утрѿ изутри, утрѣ
ашта ѳркара, фаѿ	во утрѣе {завтра, поутру, завт- рѣ, ранѿ, взавтрѣ
ицѣджемѣ	иногда {въ иное время, въ иную пору, в'икои часѣ, въ иной день.

4.0 副詞

4.1 1. 時の

4.1.1 現在の

キュー

今日 今

イマ

今

イットキシチュカラ ノチ
〔一時してから 後〕

すでに, ホラ今

アシタ ファヨ アサ

明日, 早く. 朝早く

オス, バンニ, ヨノイチカラ

晩く, 夜に, 晩 (夕) に

イツドゥイ

いつまで

イママヂェ, イマドゥイ

今まで

イツドゥイ

いつまで,

フィヤット (又はフィエット)

常に

シギユ, ヤメヂェナ

止めずに, しばしば

4.1.2 過去の

ムカシ

昔

キノ

昨日

ファヨカラ, サキ, ファヨ

以前には

キョネン

去年

ソイヨイサキ

それより先

ファジマイカラ, ファジマイ

始まりから

イッチファヨカラ, シェケンファジマイ
イカラ

最初から, 世界の始まりから

4.1.3 将来の

ソントキ カラ

その時から

モタクセネ 〔もう沢山無い〕

もはやこれ以上ない

マダネ

未だ無い

アサカラ

朝から

アシタ ヨルカラ ファヨ

明日 早く

イツヂェム

時折

4.2 2. Мѣста

4.2.1 На мѣстѣ ко вопрошенію гдѣ;

доке: донотокорѣ;	гдѣ, в'котором мѣстѣ,
коке	здѣ здѣсь
соке	ту тутъ
коке	се здѣсь вотъ здѣсь
аске	тамω тамъ
сонотокорѣ	ондѣ в'томъ мѣстѣ
бечтокорѣ	индѣ въ ином мѣстѣ
наке	внутри в'нутрѣ, в'средиѣ
аракѣ	внѣ (на вонной сторонѣ, за воротами)
уе, такω	горѣ в'верху, высокω
ште	долѣ внизу
фкака фку	низу, низкω
чкошчѣ, ваки	близѣ близкω, подлѣ, возлѣ
тука, тову	далече лалекω
сакъ, саки	предѣ на преди
наке	средѣ на серьодкѣ [серѣдкѣ]
муконѣ, мукω	противу противѣ
доке	уду гдѣ
доно токорѣ	идѣже в'которомъ мѣстѣ
дѣфокара, дѣфω	обоюду по обѣ стороны
аракѣ, соте	внѣ уду на вонной сторонѣ

4.2 2. 場所の

4.2.1 「何処に」という問いに対して

ドケ：ドノトコレ	何処，どの所において
コケ	此処に
ソケ	其処に
コケ	此処に
アスケ	彼処に
ソノトコレ	其処に
ベチトコレ	別の処に
ナケ	中に
アラケ	外に
ウエ，タコ	上に，高く
シテ	下に
フカカ フク〔深〕	下部に，低く
チコシチ，ワキ	近く，わき
トゥカ，トウ	遠く
サキ，サキ	先
ナケ	真中に
ムコニ，ムコ	向うに
ドケ	何処
ドノ トコレ	どのところに
ディョフォカラ，ディョフォ	両方から
アラケ，ソテ	外に

4.2.2 от мѣста ко вопрошенію откуду

докъ кара доно токоркара	откуду; {оттоль, оттоля, откое от мѣста, града, и стороны
кокъ кара	отсюду отсель, отсева мѣста
аскокара	оттуду оттоль
анотокоркара	отонуду из'вонъ етовѡ мѣста
аракъ кара, сото кара	отвнѣ съ вонной стороны
накакара	от внутрь из'нугра
дѣфокара	от обоюду съ обѣихъ стрѡнъ
товукара, тука токоркара	отдалеча из'далеча, из'дал- нихъ сторѡнъ, и мѣстъ
атокара, ширкара	созади съ зади
уекара така токоркара	свыше свысокова мѣста, сверху
штাকাра	сниже снизу

4.2.3 Къ мѣсту ко вопрошенію камѡ

докосаме	камѡ, куды
кокосаме	сѣмѡ сюды
аскосаме	тамѡ туды
анотокоре	онамѡ {на вонъ ето мѣсто, вон туда
доксаме	амѡ куда
доке	аможе гдѣ
дѣфосаме	обоамѡ въ оба мѣста
бечтокоре	инамѡ въ иное мѣсто
аракъсаме	вонъ вонъ
накасаме, накае	внутри всредину, в'церковь
уесаме	горе в'верхъ
штасаме	долу вннзъ
атосаме	вспять назадъ, къ тому мѣсту

4.2.2 場所から 何処からかの問いに対して

ドッカラ ドノ トコルカラ	何処から
コッカラ	此処から
アスコカラ	あそこから
アノトコルカラ	あの所から
アラケカラ, ソトカラ	外から
ナカカラ	中から
ディオフォカ	両方から
トウカラ, トッカ トコルカラ	遠いところから
アトカラ, シルカラ	後ろから
ウエカラ タカ トコルカラ シタカラ	上から, 高所から, 下から

4.2.3 場所へ 何処への問いに対して

ドコサメ	何処へ
ココサメ	此処へ
アスコサメ	あそこへ
アノトコレ	あのところへ
ドクサメ	何処へ
ドケ	何処に
ディオフォサメ	両方へ
ベチトコレ	別の所へ
アラケサメ	外へ
ナカサメ, ナケ	内に
ウエサメ	上へ
シタサメ	下へ
アトサメ	後ろへ

4.2.4 чрез' мѣсто ко вопрошенію удѣ.

докотовоччь	удѣ; чрез' которое мѣсто, уду
кокотовоччь	сюдѣ чрезъ здѣшнее мѣсто
аскотовоччь	тудѣ {чрезъ ту сторону, чрез' тамошнее мѣсто
накатовочче	онудѣ чрез' вон ето мѣсто.

4.3 3. Качества ко вопрошенію какω

икень, икенакотъдже, икень гозарка,	какω, какъ, коимъ образомъ, коим случаемъ, каково,
юка юшче, юкакотдже	добрѣ хорошω, изряднω, добрω
варка, вару, варушчь	злѣ {не корыснω, худω неладнω {лукавω, обманнω
дику, дикунь	мудрѣ мудрω хитрω
ммака, ммо, ммошчь	сладцѣ сладкω
сугка, сугу	прямω прямω
фоннокоть, фонни	правω прстω, правω, истиннω
ваки, гуриттъ	ωкрестъ ωколω цркве, кругъ града
втацы	полма пополамъ, на двое
чекакѣджена итамасаджена	цѣлω {в'цѣлости, не испортя, не- досада
итадзѣре итадзѣра	туне даромъ
кокорьясунаръ	удобъ {льзя, можнω, возможнω, {легкω(?)
каксаджена	1-авѣ 1-авнω, въ 1-авѣ, на 1-аву
каквычь	тай {тайнω, тихомолкомъ, таяся, {тихонькω
фаѣ, иседжь	скорω {скорω, не медля, не {мешкая, прыткω

4.2.4 場所を通つて どこを通つて, の問いに対して

ドコトヲッチ	何処を通つて
ココトヲッチ	此処を通して
アスコトヲッチ	あそこを通つて
ナカトヲッチェ	その場所を通つて

4.3 3. 質の どのように, の問いに対して

イケン, イケナコトヂェ, イケンゴザルカ どのようにして

ヨカ ユシチェ, ヨカコトヂェ	良く,
ワルカ, ワル, ワルシチ	悪く
ディク, ディクニ	利口に
ンマカ, ンモ, ンモシチ	うまく, おいしく
スグカ, スグ	まつすぐ
フォンノコト, フォンニ	本当に
ワキ, グリット	周囲, 教会のぐるり, 町のまわり
フタツイ	二つに
チェカケヂェナ イタマサヂェナ 〔手がけないで, 傷めないで〕	完全無缺に, 傷めずに
イタヅレ イタヅラ	徒に
ココリヤスナル	具合よく, 心やすく
カクサヂェナ	はつきりと
カクウイチ	こつそりと
ファヨ, イセヂ	はやく, 直ちに, 急いで

таксе=ука	доволн ω {полн ω будет столк ω , не надобн ω болше
ураомочъ	сквозѣ {сквозъ, насквозъ, промежъ людей
итадзъре	вотщесуе напрасн ω , даром, бездѣлн ω
икенъмо кемъ(?)	различнѣ {всяк ω , такъ и сяк пакъ нипопал ω , поль... (?)
шужнанайдже	много-всякими образы[sic!], всякими образнѣ виды[sic!], не равн ω ... (不明)
ичбе, ниде, втакен	сугуб ω , в'двое, дважды
санбе сандо, микен	трегуб ω , трожды, в'трое, трою
фаю, иттокъ	вмалѣ {в марое* время, в'немногое время, тотчасъ, толь скор ω ,
читто, скно	мал ω мал ω , на малѣ, в малѣ, чуть что

4.4 4. Количества ко вопрошенію колик ω

дошко, укака	колик ω , сколк ω , много ль
ука, таксе, сукноне амачче	мн ω , мн ω , немал ω , съ лишкомъ
читт ω , сукно, овуне, таксене	мал ω , {мал ω , немног ω , маленк ω , не множк ω
кцу ука, аматта	въ изобиль {досытъ, доволн ω , богата, будет столк ω
читтодзуцъ	почасти {почасти, по малу, по крохѣ, по долкѣ, по час- точкѣ

*正しくは малое. 日本人特有のこの誤りは、原稿を書写したのが日本人、即ちゴンザであることを物語る。

タクセ = ウカ	可なり, 十分に
ウラオモチ [裏表]	透して
イタヅレ	徒に
イケンモ ケム (?)	種々に. いろいろに
シュジナナイヂェ	種々の様子で
イチベ, ニデ, フタケイ	2 倍に, 2 回に
サンベ サンド ミケイ	3 倍に, 3 回に
ファヨ, イットキ	ただちに, 間もなく
チット. スクノ	少々

4.4 4. 量の どれだけの, の問いに対して

ドシコ, ウカカ	どのくらい, 多いか
ウカ, タクセ, スクノネ, アマッチェ	多く, 少ない, 余るほど
チット, スクノ, オウネ. タクセネ	少し, 多くない, 沢山ない
クツ ウカ, アマッタ	あり余るほど
チットヅツ	少しづつ

4.5	5. Числа	ко вопрошенію коликощи
иккей		коликощи {сколkw разoвъ; скoлкo кратъ
шигю		многощи многождъ {многожды, много разoвъ частo
ичдо, фтокей		единою единости {однова, одинова, однажды, один раз
нидо, втакей		дващи, дважды {дважды, двою, два раза
сандо, микей		трищи трижды {трою, трижды, три раза
ѳкеръ		четырижды {четырью, четыре раза
ицкеръ		пятижды пятья, пятью
мукеръ, локкеръ		шестижды шестью
нанакеръ		седмижды семью
мата когень, ичдо, нидо сандо, фякъкеръ		или сиче, единицею, двоцею, втори- цею, третицею, сторицею, сотью, сто разъ

4.6	6. Чина
каттошу	поряду рядомъ, попорядку
ичбанъ, саки	первѣе напервoдъ, сперва, первo
фаѳкара	прежде переже, первo
сононочь	посемъ послѣ севo, послѣ етовo
сошчь	таже потомъ
ато, ате	прочее, таже послѣди
сошчь, ночь	послѣди послѣ
ичбанкара	сначала сначала, сперва, снову
соре, соенянанъ	ксимъ еще надобна, и ета
ночь, сошчь,	посихъ послѣ, потомъ
кононочь	посемѣ, послѣ севo послѣ етовo

4.5 5. 数の何回か. 問いに対して

イッケイ [幾回]	何回?
シギユ [繁く]	何度も
イチド, フトケイ	一回
ニド, フタケイ	二回
サンド, ミケイ	三回
ヨケリ	四回
イツケリ	五回
ムケリ, ロッケリ	六回
ナナケリ	七回
マタ コゲン, イチド. ニド, サンド フィヤッケリ	又は1度, 2度, 3度 100度

4.6 6. 順序の

カットシュ	並んで, 連続して
イチバン, サキ	第1番に
ファヨカラ	前に
ソノノチ	その後
ソシチ	次いで
アト, アテ [後に]	その他
ソシチ, ノチ	そうして, ……の後に
イチバンカラ	最初から
ソレ, ソエニヤナラン [添えにやならん]	それに対して. さらに必要である
ノチ, ソシチ	次いで
コノノチ	この後で

сакьдуй	конецъ вovsky, доконца
саки	первое первω
втацнотъ	второе вторω
мицнотъ	третiе третье
юцнотъ	четвертое четвертое
ицуцнотъ	пятое пятое
мата	паки еще опять

4.7 7. Случая

аркотгаатта омовадже-на послушаю поприлучаю, какъ случилось, нев...ачай(?) ненарочнω

4.8 8. Повелѣнiя

икѣ, ке, кокеке	прїиди{ну поди сюда, поди в'церковь
мочке	принеси ну принеси
цычьеке(?)	приведи поди приведи
иккья	гряди поиди, ступай пожалуй
окьяи	востани {встань, поднимайся, вставай, встань пожалуй

4.9 9. Увѣщанiя

со, согень, фоннокотъ, фонни согень, усоджа не	такω { такъ истиннω, такъ, правдивω, дѣлнω, неложнω, правда так, такъ подлиннω
фоннокотъ шенмонь гунжинъ согень	истиннω в'правду, ей ей такъ во истинну { правω ну такъ, ей ей не ложнω, самое сущее дѣлω, правω, правω так подлиннω
усо, фонине	волжу {ложнω, не поправдѣ, не дѣлнω

サキドゥイ
サキ
フタツノト
ミツノト
ヨツノト
イツツノト
マタ

終りまで
第1
第2
第3
第4
第5
再び

4.7 7. 機會の

アルコトガアッタ オモワヂェナ

偶然に。故意でなく

4.8 8. 命令の

イケ、ケ、コケケ〔此処へ来い〕

来い ここへ、教会へ行け、
来い

モチケ〔持ち来い〕

持つて来い

ツイチケ

伴つて来い

イッキヤイ

行け

オキヤイ

起きよ

4.9 9. 説得の

ソ、ソゲン、フォンノコト、フォンニ
ソゲン ウソヂャネ

そうだ、本当にそうだ、
嘘ではない

フォンノコト シェンモン グンジン
ソゲン

本当に、その通り、最も本当の
こと

ウソ、フォニネ

虚偽に、本当でなく

фонни, дошчемъ фонно-котъ	воправду {праведнѡ, не ложнѡ, истиннѡ, совершеннѡ, вправду
шенмонъ гунжинъ, дош- чемъ согень икенмо со	ей {такъ конечнѡ, въ правды такъ, заправды такъ ей подлиннѡ, прав- дивѡ
дошчемъ, икеньшчемъ	весма конечнѡ, совершеннѡ
нашке, нашке нека	почтони почто не, для чегѡ не
къцу, къцу согень, дошчемъ со	и зѣлѡ {и гораздо такъ, и очунь такъ и купнѡ такъ
икеньмонемъ	всякѡ всякѡ, всячески

4.10 10. ѡтрицанія

не, икенъджай не	не, ни {никакѡ, никакъ, нипокоему ѡбразу
соджане читтѡ	не такѡ не так, не туды, не то дѣло ни малѡ {нисколкѡ, ничевѡ, ни скол- кѡ
соджане, икенъмо ора шен дошчемъ соджане	ѡтнюдъ {конечнѡ не такъ, конечнѡ я не здѣлалъ

4.11 11. Прещеія

че...урна(?), уччокъ факареньше	не {цыть нетрогай, не замай, поршнь { (?), брось
икеньмо со сурна	никакоже никак, неделай

4.12 12. Напряженія

къцу, дошчемъ кимойче, кивоцкече	зѣлѡ веми ѡчунь гораздѡ, нелегкѡ усердѡ радѣтелнѡ прилѣжнѡ
-------------------------------------	---

4.13 13. ѡславленія(*)

абнѡ, абне	едва чуть чуть одва
------------	---------------------

*ѡславленія の誤記か.

簡略文法について (村山)

フォンニ, ドシチェムフォンノコト	ほんとうに, 全くほんとうに
シェンモン グンジン, ドシチェム ソゲン イケンモ ソ	もちろんそうだ, 真に そうだ
ドシチェム, イケンシチェム ナシケ, ナシケ ネカ キツ, クツ ソゲン, ドシチェム ソ	きわめて もちろん, 完全に 何故…でないか 非常に, 全くそうだ
イケンモネム [モノム? 物も?]	あらゆる, ありとあらゆる

4.10 10. 否定の

ネ, イケンヂャイ ネ	どうしても…でない
ソヂャネ	そうではない
チット	少しも
ソヂャネ, イケンモ オラ シェン ドシチェム ソヂャネ	決してそうでない, まったく 私は為さなかつた

4.11 11. 禁止の

チェ……ウルナ (?), ウッチョケ, ファカレンシェ	手をふれるな, そつとしておけ,
イケンモ ソ スルナ	ほつておけ, 全く, 為すな

4.12 12. 緊張の

キツ, ドシチェム キモイッチェ, キョツケチェ	非常に, 熱心に
-----------------------------	----------

4.13 13. 弱まりの

アブノ, アブネ [危]	かろうじて
--------------	-------

チット, スクノ

やつと 少しばかり

チットヅツ, ソロイソレ, イソガヂェ
ナ, ドシッオ (?) ナルヨニ

少しづつ, そろりそろりと, 急
がずに, 出来るほどに

4.14 14. 判断の〔比較の〕

タクセ, オウ

いつそう多く

クツ タクセ, イチ オウ

非常に多く

アマッチェ, クツ ウカ

余るほど多く

ソイヨイ タケ, ソイヨイ オウ

それよりもつと高く, それより
多く

クツ ウカ, イッチ タクセ

非常に多い

ソイヨイ コム フォスカ

それより小さい〔細かい, 細い〕

チット

より少い

イケンモ

…より多く努力した〔?〕.
ペートルより, ヨアンより

4.15 15. 類似の

{イケン
ソゲン

…のように ルカが書くように
そのように ヨアンも

{ドシコ
ソシコ

いくら, 何程 お前がなしただけ
それほど 私もそれほど

{ドシコ
ソシコ

…だけ お前は学んだだけ賢い
それだけ
もし…ならば 親切であるならば

イケン

それだけ それだけ友情的である

мата, согень нитамон	сице { так слово... еі так, так же, [таки _М] образомъ, равнѡ такъ
со, согень	обакѡ(?) такъ какъ
бечи	онакѡ а инои инакъ
кешинме	опакѡ наизворотъ
вазатъ икенмо	аки, аки бы { будьтѡ, будьто бы
согень икена котдже, икень шче	нікѡ(?) { ...напримѣръ, ...образом здѣла- лоно

4.16 16. Разниства

соджане, икеньмо иръ юнь	инакѡ { инакъ, не такъ как надобнѡ
бечи суѡ	иначе инакѡ все

4.17 17. Недоумѣнїя

икеньмо, дошчемъ со арѡ	негли { авосьлибо, авосьлибо { такъ и сбудется
-------------------------	---

4.18 18. Попрошенїя

наньво; наньво тане-ярка	чевѡ { чевѡ спрашиваетъ, чевѡ ищетъ
нашке;	вскую, для чевѡ
наньторьке(?)	почтѡ, почтѡ
нани, икѣре	вочтѡ { в что почтилъ еси, за что { поставилъ, во что ѡцѣнилъ
нашке со	что сице, для чевѡ такъ, что так
нашке когень	почто се, для чевѡ етѡ такъ
доке	гдѣ, гдѣ
докъкара	ѡткуду, ѡтколь

マタ, ソゲン ニタモン

また, 同じようにして

ソ, ソゲン

並んで …なので

ベチ

異つて

ケシンメ

反対に, 逆に

ワザト イケンモ

あたかも…の如く

ソゲン イケナ コトヂェ イケン
シチェ

どのようにして

4.16 16. 相違の

ソヂャネ, イケンモ イルヨニ

異つて 必要なようにではなく

ベチ スヨ

別に 別に 全て

4.17 17. 疑惑の

イケンモ, ドシチェム ソアロ

もしかすれば, そうあるだろう

4.18 18. 質問の

ナニヨ; ナニヨ タネヤルカ

何を 何を彼はたずねるのか,
何をもとめるのか

ナシケ;

何のために

ナニトリケ (?)

何故に

ナニ, イクレ

いくらほどに (評価したか)

ナシケ ソ

何のために

ナシケ コゲン

何故こうか

ドケ

何処に

ドッカラ

何処から

доксаме камω, куды
когда, когда, в'кое время, коли, какω,
какъ, какимъ случаемъ
доколѣ {докоихъ мѣсть, до……голи,
 {докоегω времени

доке уду гдѣ

4. 19 **19.** Отвѣщанія

сойдже, согена котъ- чевω ради {для товω что
дже,
койдже когена котъ- для етовω, ради етакои причины
дже
сонтокъ тогда тогда, в'то время
сойдже зату зату причину, за то [sic!]вину
 {без'дѣлье, за тотъ здоръ, за ту
 {кору
имадуѣ доселѣ же } пока, покамѣсть
 дондеже }

4. 20 **20.** Собранія

фтоцы купнω, вкупѣ, одинака, вмѣстѣ, за однω
фтоць юнь равнω равнω
цумьтачечь громадкω, съяткω, кучею

4. 21 **21.** ѡтдѣленія

бѣчи, фтой особъ, на единѣ, порознь, на одинѣ
суѣ, нанджаи таксе токмω, толко всь отуть……
не точію болѣ ничевω, нѣтъ ничево болше
ой наши, ндаѣи бечи без' {без' мене, кромѣ насъ ѡпречь
 {насъ

4. 22 **22.** Избранія или исправленія

когень юка изъ……лучше етакъ, пригоднѣе жее,
 п्राстойнѣе, статнѣе

ドクサメ

何処へ, いつ, どこまで, いつまで

ドケ

何処に

4.19 19. 返答の

ソイヂェ, ソゲナ コトヂェ

その故に

コイヂェ コゲナ コトヂェ

このような理由で

ソントキ

その時に

ソイヂェ

その理由で

イマドゥイ

今迄

4.20 20. 集合の

フトツイ

一緒に

フトツ ヨニ

等しく

ツミタチェチ (積みたてて)

大量に

4.21 21. 分離の

ベチ, フトイ [一人]

個体, 一人で, 別々に

スヨ, ナンチャイ タクセ ネ

全部でこれだけ, これ以上ない

オイ ナシ, ンダヨイ ベチ
[俺 無 我々より 別に]

私なしに, 我々をのぞいて

4.22 22. とり出しの又は訂正の

コゲン ヨカ

このように…より簡素に, より恰好よく

簡略文法について (村山)

キツ ヨカ, クツ ツウィエ

より優美に 非常によい, より丈夫に

ヨカ, キツ ヨカ

一層よい, 非常によい

4.23 23. 促進の

ファヨ, イセヂェ, トメヂェナ,
ノケヂェナ

早く すぐに, 猶予なく, 抑止なく,
延期せずに

オモワヂェナ, シタヂェナ [知らないで]

突然に 思いがけず 知らずに

イタヅラ, シタンデナ [シタヂェ
ナか] トガナシ, シタン [知らん]

徒に 突然, 罪もなく, 理由もなく,
知らずに

4.24 24. 無限度の量の及び質の

ソヂャネ

そうではない

イケナコトヂェム

どうしても

ドシコ

幾回か

4.25 25. 道具の

ファヂェ

歯で

フィチシリヂェ

肘で

4.26 26. 言語の

エリンスキノ コトバ

ギリシャ語で

リムスキノ コトバ

ローマ語 [ラテン語] で

エヴレイスキノ コトバ

ユダヤ語で

フルギスキノ コトバ

フリギヤ語で(?)

アルメンキノ コトバ

アルメニヤ語で

4. 27 **27.** Сокровенія

каквычь, каквытанай- дже, соройтъ	тай {тайнѠ, тайнымъ Ѡбычаемъ, тихон- {кѠ
сороить	Ѡтаи тихонкѠ
каквыче, нусдонънай- дже	тайнѠ {воровски, тихомолкомъ, моше- {нически

4. 28 **28.** Указанія

кой, мийй	се вотъ вотъ, насмотри, гляди, зри
аске, ано токорѣ	онѠ вонъ тамъ, вонъ ето мѣстѠ

4.27 27. 秘密の

カクウィチ, カクウィタナイヂェ, ソロイト (そろりと)	こつそりと (かくれて)
ソロイト	静かに, そつと
カクウィチェ, ヌスドンナイヂェ	こつそり 盗人の風 (なり) で

4.28 28. 指示の

コイ, ミヤイ	これ ほら, これ, 見よ
アスケ, アノトコレ	あれ あそこ

謝 辞

権左・ボグダーノフの共著があらわされてから 230 年余経過した今日、原稿と日本語をこの形で内外の学界に提供しうるのはもっぱらソ連科学アカデミーが 1965 年筆者らに学術調査の機会を与え、この貴重な資料をもふくめて一連の稿本の調査を許可したからである。

ここにソ連科学アカデミーに対して深い感謝を表明する。

追 記

近着のソ連言語学誌「言語学諸問題」(1969年第3号)にヴェ・ペ・ウォムペルスキー氏の「学界に知られていない1730年のイ・エス・ゴルリツキーのロシア語文法」という論文が掲載されている(125—131ページ)。ボグダーノフが学んでいた「アカデミー・ギムナジウム」で教えていたゴルリツキー(1688—1777)が彼に影響を与えなかったはずはなく、ゴ氏のロシア語文法(刊本。これまで学界でフランス語文法と誤解されてきた)をボグダーノフが知らなかったはずはない。ゴ氏のロシア語文法とボグダーノフのロシア語文法とのふかい関係が今後証明されると思う。

1969年7月9日